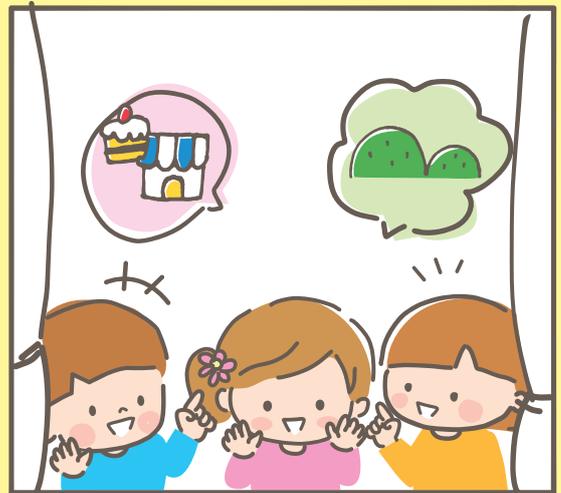
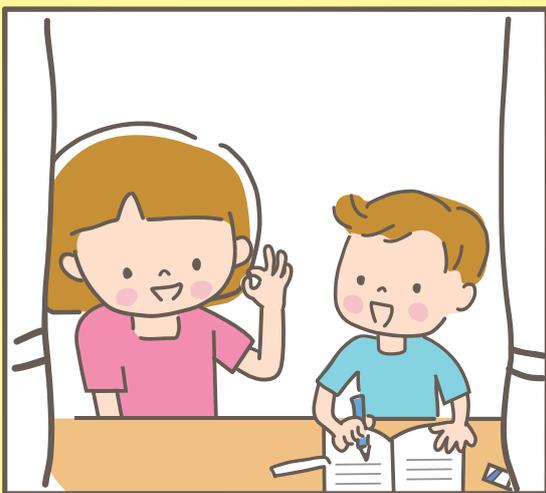


文部科学省委託事業

「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」

楽しく日本語を伸ばす 補習授業校学習活動計画集

～ダラス補習授業校の実践から～



2020年4月

公益財団法人 海外子女教育振興財団

本書の刊行にあたって

弊財団は、1971年に外務省および文部省（現 文部科学省）の許可を受け、海外で経済活動を展開している企業・団体によって設立されて以来、海外赴任者・帰任者のための教育相談・情報提供や、日本人学校・補習授業校への財政上・教育上の援助等をはじめ、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を展開・実施してまいりました。

一方、日本政府においても、近年急速に発展してきた経済社会のグローバル化に対応しうる人材育成を喫緊の課題と捉えており、文部科学省では在外教育施設をグローバル人材育成拠点と位置づけて、大学・民間研究団体等の研修者と連携して評価・検証を行い、より高度なグローバル人材の育成を見据えた先進的なプログラムの開発・推進を図ることを打ち出しました。

そしてこのたび弊財団は文部科学省からの委託を受け、それらの指導体制、指導・評価方法、ICT教材の活用等の実証研究を担う「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」（略称：AG5）（委員長：佐藤郡衛・明治大学特任教授／前 目白大学学長／元 東京学芸大学副学長）を実施する運びとなりました。

その研究の一環として、2017年より、補習授業校における多様な子どもたちの日本語能力を効果的に向上させるための総合的なプログラムの開発を行ってまいりました。その取組の概要につきましては、AG5の成果発信サイト（<https://www.ag-5.jp/>）におきましてもお伝えしているところでありますが、この成果を海外子女・帰国子女教育に関わる多くの方々に広くご活用いただくため、今般、本プロジェクトにて作成いたしました『楽しく日本語を伸ばす 補習授業校学習活動計画集 ～ダラス補習授業校の実践から～』を刊行することといたしました。

ここに、本研究開発にご尽力いただきました佐藤委員長をはじめとするAG5運営指導委員・研究員の皆様ならびにご協力いただきましたダラス補習授業校の学校関係者、児童生徒およびその保護者の皆様等すべての方々に対し、あらためまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

グローバル化の進展に伴い、在外教育施設における国際結婚家庭児童や日本国内の外国人児童等が増加するなか、多様な子どもたちへの日本語学習支援が必要とされるケースが多くなっております。本書が日本語指導に携わる皆様にとりまして、子どもたちが日本語と学習内容を同時に効果的に学ぶための手立てを考える一冊となり、今後の海外子女・帰国子女教育およびグローバル教育の発展にお役立ていただけましたら、本事業の実施者として、これに勝る喜びはありません。

弊財団では引き続き、「日本人学校など在外教育施設におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発」や「日本人学校におけるグローバル能力育成のためのプログラム開発」、「南米日本人コミュニティにおける日本型教育・日本語教育の発信・普及のためのプログラム開発」などに向けて本事業を推進し、これを通じて新たに開発したプログラムや提言を国内外の教育施設へ周知・普及することにより、高度グローバル人材育成に貢献することを目指してまいり所存でございます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2020年4月

公益財団法人 海外子女教育振興財団
理事長 中村雅治

本書について

本書は、AG5 プロジェクトで、2017 年度から 2019 年度までの間にダラス補習授業校において実施した授業の報告です。授業を作るにあたっては、日本語の力が異なる児童生徒と一緒に楽しく力を伸ばしていけるよう、次のような点に留意しました。

- ① 国語以外の教科の内容も考慮して、発達段階に相応しいテーマを選ぶ。
- ② 単元の目標に加えて「日本語の目標」を設定する。
- ③ 子どもたちがそれぞれの力に応じて主体的に取り組める学習活動を考える。

学習活動計画の後に、授業を行った先生の振り返りや、児童生徒の反応、保護者の感想を収めました。

使用したワークシート等の教材やその他の参考資料は、AG5 ウェブサイト <https://www.ag-5.jp> でご覧いただけます。単元のタイトル横の QR コードからは、該当のページにすぐにアクセスできます。

補習授業校の先生方が授業の準備をされる時、ダラスからのレポートが創造的なアイデアの源になることを期待しています。

AG5 補習校チーム



AG5 ウェブサイト

ワークシート等の教材
やその他の参考資料は
こちらから。

< URL >
<https://www.ag-5.jp/>
< QR コード >



目次

小1	しらせたいな、見せたいな	1
小2	こんなもの、見つけたよ	5
小3	すがたをかえる大豆／食べ物のみみつを教えます	9
小4	だれもが関わり合えるように アメリカや日本のユニバーサルデザイン	13
小4	写真と文で活動を伝えよう！ ～リーフレット/PPT/VTRでPR～	17
小4	自分の考えをつたえるには ～おすすめの場所は？～	21
小4	発見！わたしたちのテキサス（第1章）	29
小4	発見！わたしたちのテキサス（第2章）	33
小5	すいせんします（話す、聞く）	37
小5	一まいの写真から ～きみはベストセラー作家！～	43
小5	天気を予想する	45
小5	グラフや表を用いて書こう（社会：世界とつながる日本の工業） ～日本の総理大臣になって、日本の自動車産業を考え、意見文を書こう～	47
小6	海の命	49
小6	未来がよりよくあるために	57
小6	『鳥獣戯画』を読む／絵画や写真を見るときには	59
中2	根拠を明確にして意見を書こう	71

しらせたいな 見せたいな



関連する教科書単元 国語（光村）1年下 しらせたいな、見せたいな 生活科との関連；あきを さがそう

1 目 標

単元 の 目 標

- * 書こうとする題材に必要な事項をよく観察し、語と語や文と文の書き方に気をつけて書くことができる。
- * 句読点を正しく使って文章を書くことができる。
- * 書いた文章を読み返す習慣をつけ、間違いを直すことができる。

日本語 の 目 標

- * 書き出しの文章を考える。
- * 様子を表す語彙、使える表現の方法を増やす。
- * 「何が」「どこが」という主語を意識させる。

2 学 習 課 題 と 活 動

学 習 課 題

- * 「ぼくの～」「わたしの～」を使って自分だけが知っているものを先生や友達に教えてあげよう。
- * 知らせたいものをよく観察して様子がよく分かるように書こう。

主 な 学 習 活 動

- ① 様子を表す言葉集め、ゲームをする。
- ② 家の周りで書きたい「秋のもの」を見つけ、その様子を表す言葉を集める。
- ③ 絵やメモを見ながら文章を書く。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	課題をつかむ。	<p>様子を表す言葉をさがそう。</p> <p>①教科書のワーク1を参考に、「様子を表す言葉」を集める。</p> <p>②「様子を表す言葉」を使った言葉遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 様子を表す言葉をカードに書く。 * 主語になる言葉「だれが」「なにが」をカードに書く。 * 主語と様子を表す言葉をランダムに組み合わせるとどんな文ができるかを楽しむ。 <p>③絵と言葉のメモの作り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * メモを書くときどんなことが分かるか、どんなところがいいかを考えて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「様子を表す言葉」に関心を持たせる。 * 「見つけたものをみんなに教えてあげよう」ということで意欲を持たせる。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * 家の周りで「秋のもの」を探して教科書のような絵と言葉のメモを書く。可能なら実物を学校に持ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 必要な場合は家庭での援助をお願いする。
2	課題にとりくむ。	<p>見つけたものを知らせよう。</p> <p>①絵と言葉のメモを見ながら短冊に文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 一つの短冊に主語と「様子を表す言葉」のある一文を書く。 * 余裕のある児童には、実物を見てメモになり表現も考えさせる。 <p>②実物を見せながら短冊に書いた文を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 上手に言葉を選んでいる文の良さを確認し合う。 <p>③短冊を参考にしながら見つけたものを知らせる文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 最初の文は「ぼくは～」「わたしは～」（「ぼくの～」「わたしの～」でもよい）で書き始めるようにする。 * 短冊の文を書き写しても、新しい文を書いてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「何が」「どこが」という主語を意識させる。 * 特徴がよく分かる言葉を選んでいるか確認する。 * 「見つけたもののことがみんなによく分かるように」という目的を意識させる。
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> * 文章が書き終わらなかった場合は完成させてくる。 	
3	成果の確認	<p>発表会をしよう。</p> <p>①書いてきた文章を声に出して読む練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ペアになって聞き合う。 <p>②発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * みんなに聞こえるようにはっきりと読む。 * 上手なところ、がんばったところを認め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> * お互いの文章のよいところをほめ、次への書く意欲につなげるようにする。
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> * 家庭で「発表会」をしておうちの人に聞いてもらう。 	

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
1	<p>様子を表す言葉の学習。</p> <p>家庭学習課題</p>	<p>めあて よく見て書こう。</p> <p>① デジタル教科書のワーク I を参考に、様子を表す言葉を集める。</p> <p>② メモを書くときどんなことが分かるか、どんなところがいいか、発表する。</p> <p>★ 言葉遊びゲーム「おもしろ文作り」</p>	<p>* まず教師が自分の様子について、「先生を見たら、どんな様子？」と子どもたちに尋ねたところ、「外から来て暑くて死にそう。」と答えることにより、授業に入ったところが非常にスムーズで良かった。やはり子どもたちにとって、身近に感じられるトピックから入ることで興味関心を引くことができる。</p> <p>* 「秋を知らせるもの」を iPad のカラフルな画像で見せることで、子どもたちが「うわあ！」といっきにホワイトボードに引き付けられ、これから自分たちが何の題材について「様子を表す言葉」を学習するのが明確に伝わった。</p> <p>* 画像だけでなく、教師が持参した「どんぐり、秋の実、秋の葉っぱ、秋の果物や野菜」などの実物を見せて、実際に触らせたことで、更に本単元の学習に興味を持たせることができた。</p> <p>★ 教師が「ぼくしか知らないから、教えてあげたいな！という気持ちを文にするよ。」と指示したことで、子どもたちの「おもしろ文作り」への期待感が高まった。</p>
2	<p>学習課題をつかむ。</p>	<p>① 宿題で書いてきた絵とメモを見て短冊を作る。</p> <p>② 短冊をもとに、文章を書く。</p> <p>③ 書いた文章を読み返す。</p>	<p>* 始めに、教師が自作（親近感がわく）のスキの絵とメモで短冊を書いて紹介したことで、子どもたちにとって「次に自分たちが何をやるのか」の課題が分かりやすく示された。</p> <p>* 題材を説明するための観点を「五感」（見た目、触った感じ、聞こえるもの、匂い、味）に注目して書くよう強調したことで、様々なメモが書けていた。使われていた表現も豊かだった。</p> <p>* 宿題で書いてきたメモをもとに、授業中に「メモから複数枚の短冊へ文で書く」→「短冊の文を順番を入れ替えて、文章に組み立てる」→「その文章を原稿用紙に書き写す」とスモールステップを追っていたので、いきなりまとまった文章を書くことへの負担感が軽減されていた。また、自宅では保護者に頼ってしまいがちな書く課題を、何とか自分で書こうと努力している姿が見られた。</p> <p>* 書き出しを「私（ぼく）は//の～」を使うことによって、自分だけが知っているものを教師や友達に教えてあげたいという意欲が高まり、明確な言語活動の目標が持てた。</p>
3	<p>お互いの文章の良いところを褒め合う。</p>	<p>書いた文章を発表する。</p>	<p>* 発表の最中に、それぞれの子どもが自宅で書いてきた絵とメモをプロジェクターで映したので、耳で聞くだけでなく視覚的にも内容が分かりやすかった。</p>

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<p>* 教師が「秋を知らせるもの」をiPadで見せる前に「何があるかな？」と発問を投げかけ、隣の友達とペアで話して、その結果を紙に書いたり、口頭発表でクラス全体共有すると、更に子どもたちの活動が増える。</p> <p>★ 時間に余裕があれば、出来上がった文をホワイトボードに書いていくと、「文の組み立て」が分かりやすくて良いかもしれない。</p>	<p>* デジタル教科書「ワーク1」のモルモットの絵に興味を示し、「様子を表す」言葉についての発話が活発に行われた。視覚教材の効果は大きい。</p> <p>* 挙手→指名→起立をして発言→「はい、～です。」と文で答える→着席の流れが学習規律がしっかりと身についている。</p> <p>* 教師がどんぐりや葉っぱをジップロックから出すたびに、「わあ！」と歓声が上がっていた。実物を使うと反応がとても良い。授業後には「授業で使用した秋を知らせるものが欲しい」と言い、みんなで分けて持ち帰った。</p> <p>★ 三色の短冊の言葉を継ぎ足して、面白い文ができるために、クラス全体が盛り上がり、子どもたちがとても楽しんでた。面白すぎて椅子から落ちる子どもがいたり、「もっとやりたい！」という声も多かった。</p> <p>★ 三色の短冊にそれぞれ指定された単語を書く課題は、書けるスピードに個人差があった。</p>
	<p>* とても嬉しそうに、実物の題材をクラスみんなに見せていた。「自分で見つけてきた」という特別感が良いようだ。</p>
<p>* ホワイトボードに示された「～を～で見つけました。」や「～は～です。」の文例を見ただけでは自力で文を書くことが困難な子どもたちへの手当てとして、「()は()で見つけました。」や「()は()です。」と書かれた()埋めの短冊を用意するのも効果的だと思われる。</p>	<p>* 自力で短冊にすぐに文が書けている子どもたちと、教師の一言アドバイスがあると書ける子どもたちと様々だった。</p> <p>* 宿題で仕上げてきた題材の絵とメモ、それに授業中に書いた複数短冊を見ながら、一生懸命に原稿用紙に書き写している姿が印象的だった。よくがんばっていた。</p>
	<p>* 自分の発表は緊張気味でも、友達の発表を聞くことは楽しそうだった。友達が何についてどんなことを書いたかに興味津々の様子だった。</p>



1 目標

単元の目標

- 「はじめ」「中」「おわり」の文章の組み立てを使って、自分の見たものや経験したことを書くことができる。
- 書いたものを発表し合い、感想を伝え合うことができる。

日本語の目標

- * 「〇〇を見つけました。」「〇〇は～です。」などの文型を使って、見つけたものや気づいたことを伝えることができる。

2 学習課題と活動

学習課題

- * ダラスで自分が見つけたものが、日本にいる親戚や友達に伝わるように文を書く。

主な学習活動

- ① ダラスで見つけたことを話し合う。
- ② 「はじめ」「中」「おわり」に分けて文章を書く。
- ③ 書いたものを発表する。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	<p>① 課題をつかむ。</p> <p>② 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを知る。</p> <p>③ 「はじめ」と「おわり」を書く。</p>	<p>めあて 日本の親せきや友だちにつたえたいものを見つけよう。</p> <p>グループになって、「みつけたよダイス」をしながら、見たこと・聞いたこと・したことなどを話し合う。</p> <p>ブレインストーミング</p> <p>文章構成の学習 2枚の短冊にそれぞれ「はじめ」と「おわり」を書く。</p>	<p>* ブレインストーミングとして、「みつけたよダイス」で遊びながら話し合いを進める。各面には、「ダラスの動物」「ダラスのおうち」などと書いておき、出た面に合った「みつけたよカード」の内容を発表する。</p> <p>* ハンバーガーのイラストを使用し、「はじめ」「中」「おわり」を学ぶ。右に半回転させ、縦書きにすると「はじめ」が右側に来ることを確認する。</p> <p>* 違う色の短冊を一人2枚ずつ配布し、一枚は「はじめ」もう一枚には「おわり」を書く。</p>
2	<p>① 課題をつかむ。</p> <p>② 発表の練習をする。</p>	<p>めあて 「中」の文を書いて文章を完成させよう。</p> <p>* ワークシートの「中」の部分完成させ、短冊に書きワークシートに貼る。</p> <p>* 完成した文章をグループで読み合う。</p>	<p>* 「中」の部分に使える表現を確認する。</p> <p>* モデル文が記載されたワークシートを使用する。</p> <p>* 発表の練習を、最初はペアで、その後グループでと、少人数で行うことにより自信をつけられるようにする。</p>
3	<p>① 発表の目標を確認する。</p> <p>② 発表する。</p> <p>③ 感想を伝え合う。</p> <p>④ まとめをする。</p>	<p>めあて 発表会をしよう。</p> <p>* ポスターセッション式に、前半、後半に分けて発表させる。</p> <p>* 自己評価シート記入。</p>	<p>* ポスターセッション式にすることで、何度も読むことで自信をつけさせる。</p> <p>* 始めにルブリックを配布し、目標を持って発表させる。</p> <p>* 発表の後に自己評価ができるようにする。</p>

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
1	<p>① 課題をつかむ。</p> <p>② 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを知る。</p> <p>③ 「はじめ」と「おわり」を書く。</p>	<p>めあて 日本の親せきや友だちにつたえたいものを見つけよう。</p> <p>ブレインストーミング グループになって、「みつけたよダイス」をしながら、見たこと・聞いたこと・したことなどを話し合う。</p> <p>* 「はじめ」「中」「おわり」それぞれにどんなことを書くのかを知る。</p> <p>文章構成の学習 2枚の短冊にそれぞれ「はじめ」と「おわり」を書く。</p>	<p>* 「見つけたよ！カード」（一人6枚）を宿題で書いてきたことで、実際に文を書く段階になって、自分の興味の題材をすぐを選ぶことができていた。そこには、「自分で書きたいものを書く」という気持ちが生まれていたようだった。通常は「(文章を)書かされている」という受け身の姿勢が多いので、この単元では「進んで自分で書く」姿勢が多くの子ども達の中に見られて良かった。</p> <p>* サイコロを使ってグループ活動をしたことで、子ども達にとって「遊びの要素」が加わった。グループ内で、楽しそうに生き生きとブレインストーミングに取り組んでいた。</p> <p>* 「はじめ」（黄色の短冊）と「おわり」（青の短冊）に分けたのは、子どもにとって視覚的に分かりやすく、課題に取り組みやすそうだった。</p>
2	<p>① 課題をつかむ。</p> <p>② 発表の練習をする。</p>	<p>めあて 「中」の文を書いて文章を完成させよう。</p> <p>* ワークシートの「中」の部分を完成させ、短冊に書きワークシートに貼る。</p> <p>* 完成した文章をグループで読み合う。</p>	<p>* 前時の復習で、「はじめ」と「おわり」の短冊を指定した手にそれぞれ持たせたことで、文章の構成が明確に思い出せていた。そして、本時では、その間にはさまる「中」を書くことがはっきりと理解できていた。</p> <p>* 例文に出てくる「鳥の形をした花」をパワーポイント資料だけでなく、教師が自分で描いたイラストを子ども達に見せながら、クイズ形式で「中」の文例を示した。子ども達がクイズに答えることで、自然と「中」の文例が出来上がっていき、先生が一方向的に教え込む形式でなく良かった。</p> <p>* 「はじめ」「中」「おわり」の短冊を色で分け、最後にA3のワークシートに貼ったことで、子どもたちにとって文章構成が視覚的にもはっきりと分かった。また「(文章が)できた！」という達成感があったのではないかと思われる。</p>
3	<p>① 発表の目標を確認する。</p> <p>② 発表する。</p> <p>③ 感想を伝え合う。</p> <p>④ まとめをする。</p>	<p>めあて 発表会をしよう。</p> <p>* ポスターセッション式に、前半、後半に分けて発表させる。</p> <p>* 自己評価シート記入。</p>	<p>* 授業活動案では、ポスターセッション形式で発表会を予定していたが、子ども達の間から「前に出て一人ずつ発表をしたい！」と希望があり変更をした。その結果、自分達が希望しただけあって、少し緊張しながらもがんばっていた。</p> <p>* 一人一人の発表のあとに、先生が「(例)90点！」とすぐに点数を言ってあげたので、子ども達は達成感が得られて嬉しそうだ。</p>

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 「見つけたよ！カード」が横書きだったので、ワークシートに合わせて縦書きにした方が良い。 * ワークシート①「はじめ」を書かせる時に、「いつ」「どこで」「なにを」の（ ）のみだったので、そこに「どんな」を加えると、文が作りやすい。 * 「はじめ」と「おわり」の内容が一致していない子どもがいたので、文型を指導する時に工夫が必要だった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「はじめ」「中」「おわり」の説明のためにハンバーガーをプロジェクターで見せた時に、子ども達が興味津々だった。
<ul style="list-style-type: none"> * 「中」のワークシートでセンテンスシステムになっている部分が細かく指定をし過ぎていたので、「はじめ」に書かれている内容によっては、「中」に書かれている内容が、本来書かれるべきである内容にきちんと当てはまっていなかったり、文脈的におかしくなってしまうたりしている事例が多々あった。もっと、「中」の部分は様々な例を挙げるか、若しくは自由に書かせるスタイルでもよいかもしれない。 * 「中」の文章の始まりは、「なぜなら～」だけに限定せず、もう少し自由に書かせてもよい。「なぜなら」という言葉に引っかかり次に進めない子が何人かいた。 * 「中」の部分で、後半の「また～」以降の文を自主的に書ける子どもたちが少なかったため、「また～」以降は省いて、前半の「なぜなら～」のみで書かせるだけで十分だと思われる。 * 文章例が小学2年生にとっては分量が多かったと思われる。もっと短くてコンパクト「はじめ」「中」「おわり」にまとまっている文章を書かせる方がよいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「中」の文例に出てくる「鳥の形をした花」や「図鑑」を見て、「これから何が始まるかな？どんな質問がくるかな？」と好奇心たっぷりだった。 * 「中」＝「理由」（なぜならば～）を書く課題は、日本語力に課題がある子ども達にとっては難しそうだった。仕上げるために、教師の手伝いが必要であった。
<ul style="list-style-type: none"> * 「(友達の発表を)正しい姿勢で聞きましょう。」では子ども達にとって「何が正しい姿勢なのか？」が分かる明確な指示でないため、「発表をしている人におへそを向けましょう。」など具体的な指示を与えると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> * 子ども達が「一人ずつ前で発表したい！」との声があったので、急きょ発表形式を変えた。前に出てきちんと発表出来た子どもと、どうしても人前での発表が苦手で泣いてしまった子どももいた。今後はポスターセッション式に発表も取り入れていきたい。

すがたをかえる大豆／食べ物のひみつを教えます



関連する教科書単元 国語（光村）3年下 せつめいのくふうについて話し合おう／れいをあげてせつめいしよう

1 目 標

単元 の 目 標

- ◎ 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
- ◎ 目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。
- 「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。

日本語の目標

- 複数ある事例を列挙するときに使える表現を知る。「まず」「次に」「また」「さらに」など。
- 調理に関する言葉を知る。「にる」「いる」「(こなに) ひく」「むす」「ゆでる」など。
- 「～して食べるくふうがあります。」「○○を…して—すると、△△になります。」等の表現を使って、説明文を書くことができる。

2 学習課題と活動

学 習 課 題

- * 目的に適した事例を複数挙げながら、段落に分けて説明する文章を書くことができる。

主な学習活動

- * 章を段落に区切り、構成を意識して読む。
- * 「まず」「次に」「また」「さらに」と「このように」などを使って、事例を挙げて説明文を書く。



3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	家庭学習課題 学習課題をつかむ。 「すがたをかえる大豆」を読む。 自己評価をする。	調理に関する言葉を国語辞典で調べる。 めあて 大豆のひみつを見つけよう。 ① 調理に関する言葉の味について発表する。 ② 範読を聞いて、初めて知ったことや既に知っていたことなどの情報をワークシートに整理する。	* 言葉集めカードに記入する。 * 調理に関する表現を知ること、後で使えるようにする。 * 紙芝居型本文を配付する。 * ルーブリックで自己評価する。
	家庭学習課題	紙芝居型本文を持ち帰り、「すがたをかえる大豆」を音読する。	
2	学習課題をつかむ。 段落ごとに詳しく読む。	めあて せつめい文のひみつを見つけよう。 ① 文章を段落に分けて読む。 * それぞれの段落を「初め」「中」「終わり」に分ける。 * どうしてそこで分けたのかを、ペアで説明し合う。 ② 「すがたをかえる大豆」の「中」の各段落を読む。 * 段落③～⑦に書かれた「おいしく食べるくふう」と「食品」を読み取り、ワークシートに整理する。 ③ 各段落の一つめの文と二つめの文に何が書かれているか読み取り、段落内の文章構成の工夫に気づく。	* 長い文章は区切って読むことを思い出し、文章には「初め」「中」「終わり」の構成になっているものが多いことを意識させる。 * ペアの組み方にも配慮する。 * 段落内の文章構成を知ること、後に自分で文章を書くときの参考にする。
	学習課題をつかむ。 興味を持った食材について調べる。 自己評価をする。	めあて 食べ物のひみつを調べよう。 ① 教科書のモデル文から「食べ物のひみつを教える説明文」の書き方を考える。 ② 調べてみたい食品について考えて Web 図をかく。 * 調理法ごとに料理名を書き、分からないところは空欄にしておき、後で本やインターネットで調べることとする。	* 文章構成や使いたい表現を確認し、後で使えるようにする。 * 好きな食べ物の主な材料から考えてもよいこととする。 * 調理法ごとに様々な料理があることを想起させる。
3	家庭学習課題	分からないことを本やインターネットで調べる。「すがたをかえる大豆」を音読する。	* インターネットの使用に際しては保護者の協力を得る。
	学習課題をつかむ。 説明文を書く。 自己評価をする。	めあて 食べ物のひみつを教えるせつめい文を書こう。 ① 調べてきたことや Web 図をワークシートに整理する。 * ワークシートの使ってみたい言葉を確認する。 ② ワークシートを作文メモ代わりにして、説明文を書く。	* 段落ごとに読み返しながらか、誤字脱字をチェックさせる。
4	家庭学習課題	説明文を書き終えられなかったら、仕上げてくる。	
	学習課題をつかむ。 自己評価をする。	めあて 友達が書いた食べ物のひみつを読んでみよう。 ① ペアごとに発表し合い、一番食べてみたい料理を書きとめる。 * 互いに発表しあったら、ペアをかえて繰り返し発表し合う。 ② 「食べ物のひみつ図かん」の表紙をつくる。	* どんな食材や料理があったかを思い出しながらか表紙の絵をかかせる。
5	家庭学習課題	表紙を描き終えられなかったら、仕上げてくる。	* 後日、作文を「食べ物のひみつ図かん」にまとめ、配付する。
6	家庭学習課題	表紙を描き終えられなかったら、仕上げてくる。	

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
0	家庭学習課題	調理に関する言葉を国語辞典で調べる。	<ul style="list-style-type: none"> * 授業に先立って言葉調べを行ったので、範読を聞く際に内容が十分に理解できた。 * 言葉集めカードを使ったので、意味が曖昧になったときにいつでも確認できてよかった。
1	学習課題をつかむ。 「すがたをかえる大豆」を読む。 自己評価をする。 家庭学習課題	<p>めあて 大豆のひみつを見つけよう。</p> <p>① 料理に関する言葉の味について発表する。 ② 範読を聞いて、初めて知ったことや既知に知っていたことなどの情報をワークシートに整理する。</p> <p>紙芝居型本文を持ち帰り、「すがたをかえる大豆」を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 読み取ったことを自分の知識と照らし合わせて分類しようとする中で、内容について正確に読み取ろうとし、より深い読みにつながった。 * 段落ごとにページを分け、写真と文章を対応させた紙芝居型本文を使うことで、段落ごとに内容を理解しやすくなることができた。全ての漢字にルビをふった物を用意することで、漢字や音読に苦手意識を持つ児童も音読に取り組みやすくなった。
2	学習課題をつかむ。 段落ごとに詳しく読む。	<p>めあて せつめい文のひみつを見つけよう。</p> <p>① 文章を段落に分けて読む。 * それぞれの段落を「初め」「中」「終わり」に分ける。 * どうしてそこで分けたのかを、ペアで説明し合う。 ② 「すがたをかえる大豆」の「中」の各段落を読む。 * 段落③～⑦に書かれた「おいしく食べるくふう」と「食品」を読み取り、ワークシートに整理する。 ③ 各段落の一つめの文と二つめの文に何が書かれているか読み取り、段落内の文章構成の工夫に気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 正しく「初め」「中」「終わり」に分けられなかった児童も、ペアの説明を聞いて、正しく分け直すことができた。 * どうしてそこで分けたかを説明するために、もう一度考え直し、段落の内容的な共通点を探ることができた子もいた。 * ワークシートに書かれた段落3の例を参考にして、段落内の文章構成に気づき、「おいしく食べるくふう」と「食品」を読み取って、ワークシートに整理することができた。
3	学習課題をつかむ。 興味を持った食材について調べる。 自己評価をする。 家庭学習課題	<p>めあて 食べ物のひみつを調べよう。</p> <p>① 教科書のモデル文から「食べ物のひみつを教える説明文」書き方を考える。 ② 調べてみたい食品について考えて Web 図をかく。 * 調理法ごとに料理名を書き、分からないところは空欄にしておき、後で本やインターネットで調べることとする。</p> <p>分からないことを本やインターネットで調べる。「すがたをかえる大豆」を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書のモデル文を提示し、段落ごとに書いてあることを考えることで、自分で「食べ物のひみつを教える説明文」を書く際に何を書けばよいかを理解することができた子が多かった。 * すがたをかえていると思う食品や、よく知っている食品の材料を考えて発表することで、食品や材料について調べてみたいという意欲を持たせることができた。 * 本校には児童がパソコンを使うことができる設備はないが、保護者にお便りをお願いし、十分な調べ学習を家庭でもらうことができた。
4	学習課題をつかむ。 説明文を書く。	<p>めあて 食べ物のひみつを教えるせつめい文を書こう。</p> <p>① 調べてきたことや Web 図をワークシートに整理する。 * ワークシートの使ってみたい言葉を確認する。 ② ワークシートを作文メモ代わりにして、説明文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ワークシートに使ってみたい言葉や文例を挙げておいたので、作文が苦手な児童もそれらを見ながら比較的楽に書くことができた。
5	自己評価をする。 家庭学習課題	<p>説明文を書き終えられなかったら、仕上げてくる。</p>	
6	学習課題をつかむ。 説明文を書く。 自己評価をする。 家庭学習課題	<p>めあて 友達が書いた食べ物のひみつを読んでみよう。</p> <p>① ペアごとに発表し合い、一番食べてみたい料理を書きとめる。 * 互いに発表しあったら、ペアをかえて繰り返し発表し合う。 ② 「食べ物のひみつ図かん」の表紙をつくる。</p> <p>紙を描き終えられなかったら、仕上げてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ペアでの発表にしたので、一度だけでなく、何度も発表することができ、発表が苦手な児童も少しずつ慣れていく様子が見られた。 * ペアでの発表は距離が近く、比較的気楽に質問や感想を伝え合うことができた。 * 発表を聞いて一番食べてみたい食品を書きとめることにしたことで、目的意識を持って聞くことができた児童が多かった。

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 多面的な理解のため、VTR や写真を見せてクイズなどを行うとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 普段から使っている言葉集めカードを活用することで、追加の宿題ではあったが、喜んで調べようとする児童が多かった。
	<ul style="list-style-type: none"> * どの子も4つ以上の読み取ったことを初めて知ったことや既に知っていたことに分けることができた。
<ul style="list-style-type: none"> * ルビ付きのものとはそうでないものを裏表にしたが、どちらか一方だけを使う子が多かったので、どちらか一方を選ばせるようにした方がよかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> * 写真と段落が対応していたので、段落ごとの内容をよくつかんでいた。 * ページが増えてしまったので、参照したい段落を見つけづらそうにしている子もいた。
<ul style="list-style-type: none"> * 「初め」が2段落ある文章が初めてであることから、正しく分けられない児童が多かった。「初め」が2段落以上ある説明文を予め読ませておくべきであった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「初め」と「終わり」は1段落ずつであると思い込んでいる子が多いようであった。 * 「おいしく食べるくふう」と「食品」を全て読み取って書くことができた児童が約半数であった。
<ul style="list-style-type: none"> * 用意しておいた短冊が大きすぎて、うまく整理して貼ることができなかった。短い言葉で貼りやすいサイズに作っておくべきであった。 * 材料が分かりにくい食品の図をいくつか提示すると、イメージが伝わりやすかったのではないか。 * 授業中に本を使って調べさせたかったが、十分な数が図書室になかった。コピーを用意したが、資料として使える本がもう少しあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 振り返りカードに「食べ物のひみつを教える説明文」を書く際に何を書けばよいかを理解できたと答えた児童が多かった。 * 子ども達にとって身近な材料であるじゃがいもや牛乳などを調べてみたいと考える子が多かったが、様々な食べ物のひみつについての図鑑を作りたいことを伝えると、さとうきびや麦などについて調べようとする子も出てきた。 * 全員が「食べ物のひみつを教える説明文」を書くのに十分な調べ学習をしてきた。
<ul style="list-style-type: none"> * 書きたい気持ちが先行し、夢中で書いているうちにワークシートの使ってみたい言葉や文例からずれてしまう児童がいたので、時々注意を促すとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> * Web 図とワークシートの使ってみたい言葉や文例を見比べながら、夢中で書いている児童が多かった。 * いつもよりも書くことが楽しかったという児童が多かった。 * 全員が説明文を仕上げ提出することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> * 次々にペアをかえながら、楽しそうに発表し合っていた。
	<ul style="list-style-type: none"> * 出来上がった「食べ物のひみつ図かん」を配付すると、嬉しそうに読んでいた。

だれもが関わり合えるように アメリカや日本のユニバーサルデザイン



1 目標

単元の目標

- ◎ 関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。
- ◎ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。
- ◎ 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。

日本語の目標

- ◎ 発表するのに効果的な表現や話し始めの興味を引くための表現を知る。
「～を調べました。」「～ということが分かりました。」「～と思いました。」「～と考えました。」「～したいです。」「～を聞いたことがありますか。」「～を知っていますか。」など。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 伝えたいことがはっきりわかるような発表原稿を書こう。

主な学習活動

- ① だれもが関わり合うことについて体験したり、写真等を見たりして、調べる事柄を決める。
- ② 文章の組み立てを考える。
- ③ 発表の原稿を書く。
- ④ 効果的な発表の仕方を考えて練習する。
- ⑤ クラスで発表したり、友達の意見を聞いて感想や意見を述べたりすることができる。
- ⑥ 他の補習授業校や日本の学校の友達に伝える。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	<p>身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫について知り、自分なりの課題を決める。</p> <p>めあて</p> <p>① 教科書 114 ページの写真や身の回りのだれもが関わり合える工夫をしているものの写真を見る。 * 信号・盲導犬・スロープ・手話のニュースなど</p> <p>② 教室の各コーナーにステーションを設置して体験活動をする。 * アイマスクをして疑似体験をする（折り紙） * 点字を体験する（本や資料を実際に触ったり、点字で自分の名前を書き表したりする） * 英語や日本語の手話を体験する。</p> <p>③ 体験後に、その感想やほかにも身の回りの生活の中での工夫があるかどうかを発表する。 * お年寄り、子ども、妊婦のための工夫 * ユニバーサルデザイン</p> <p>④ 体験や友達の発表などから自分の課題を決め、ワークシートに書き込む。</p>	<p>* 自分の生活と比べたり、体験をしたりすることによって、身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫等に気づき、自分なりの課題を決めるように促す。</p> <p>* 点字や手話は言語によって異なることを実感できるように、英語と日本語の点字に触れる。</p> <p>* 図書館から関連図書を借りて展示しておく。（英語と日本語）</p> <p>* お年寄りや妊婦、小さい子供などが関わり合えるような工夫があることにも触れる。</p> <p>* 自分の課題持ちやすくするため学習したことを白板上で WEB 図にまとめる。</p>
	家庭学習課題	自分の課題について調べ、短い言葉や文でカードに書く。調べる際に、発表のことを考え、説明をわかりやすくするための写真や絵、図などがあると効果的なことを知る。	調べる際に、絵や写真などをいっしょに集めるように促す。
2 3	中心を決め、構成を考え、記述する。	<p>調べてきたことを整理して、自分が一番伝えたいことを決め、発表原稿の構成メモを仕上げる。</p> <p>めあて</p> <p>* 教科書の例文をもとに文章の構成を学ぶ。 * 宿題のカードを整理して、中心となる事柄を決める。 * ワークシート上に、メモを並べ、構成メモを仕上げる。 * 構成メモをもとに、発表原稿を書く。</p>	<p>* 初め、中、終わり、のそれぞれに具体的に何が書いてあるかを教科書の例文で学ぶ。</p> <p>* メモの羅列にならないよう、文末に使うと効果的な言葉の表を掲示したり、ワークシートにも例として記述したりする。</p>
	家庭学習課題	原稿を仕上げ、発表練習をする。発表の内容をうまく伝えるための絵や写真などの資料の効果的な見せ方についても考える。	家庭で練習する際に、保護者に励ましの言葉や感想を書いてもらう。
4	発表	<p>伝えたいことがはっきりわかるように発表をしたり、友達の発表の良いところを見つける。</p> <p>めあて</p> <p>(話し手) 視線、声の大きさ、読む速さなどに気を付けて発表する。</p> <p>(聞き手) 話し手の伝えたいことは何かを聞き取ったり、発表の良い点を見つけたりする。</p>	2人ペアで2回、その後3～4人のグループで発表することで、回を追うごとに、前の発表の反省を生かしたり、友達の発表の良いところを自分の発表にも取り入れたり、人前で抵抗なく発表できるようにする。

4

授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
1	学習課題をつかむ。	<p>身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫について知り、自分なりの課題を決める。</p> <p>めあて</p> <p>① 教科書 114 ページの写真や身の回りのだれもが関わり合える工夫をしているものの写真を見る。 * 信号・盲導犬・スロープ・手話のニュースなど</p> <p>② 教室の各コーナーにステーションを設置して体験活動をする。 * アイマスクをして疑似体験をする（折り紙） * 点字を体験する（本や資料を実際に触ったり、点字で自分の名前を書き表したりする） * 英語や日本語の手話を体験する。</p> <p>③ 体験後に、その感想やほかにも身の回りの生活の中での工夫があるかどうかを発表する。 * お年寄り、子ども、妊婦のための工夫 * ユニバーサルデザイン</p> <p>④ 体験や友達の発表などから自分の課題を決め、ワークシートに書き込む。</p>	<p>* 4つのステーションで行う「疑似体験」がとても有効であった。子ども達が生き生きと取り組んでおり、調べ学習の課題を決定するのに、興味をもって取り組むことができた。やはり実体験が伴う学習は、子どもたちが主体的に取り組める。</p> <p>* 教師が示したユニバーサルデザインについての資料が豊富だったので、子ども達の課題選びの手助けになった。それにより子ども達が自分たちの知らないことを知ることができ、課題選びの選択肢が広がった。自宅で日本語による調べ学習が困難な子ども達は、これらの参考に自分が調べる課題の候補を時間内に決めることができた。</p>
	家庭学習	自分の課題について調べ、短い言葉や文でカードに書く。調べる際に、発表のことを考え、説明をわかりやすくするための写真や絵、図などがあると効果的なことを知る。	* 自分一人で日本語の文章を書くことが困難な子ども達は、家庭で助けてもらいながら色カードを仕上げることができた。
2	中心を決め、構成を考え、記述する。	<p>調べてきたことを整理して、自分が一番伝えたいことを決め、発表原稿の構成メモを仕上げる。</p> <p>めあて</p> <p>* 教科書の例文をもとに文章の構成を学ぶ。 * 宿題のカードを整理して、中心となる事柄を決める。 * ワークシート上に、メモを並べ、構成メモを仕上げる。 * 構成メモをもとに、発表原稿を書く。</p>	* 構成表のワークシートは、「初め」「中」「終わり」を意識した内容のものを毎回記述の際に使用しており、今回はそれを発表原稿用に少し手直したものを使用した。その構成表に宿題で書いてきた「調べ学習の内容」の色カードを授業中に構成表に並べたことで、その後の発表原稿の記述活動をスムーズに行うことができた。
	3	家庭学習課題	原稿を仕上げ、発表練習をする。発表の内容をうまく伝えるための絵や写真などの資料の効果的な見せ方についても考える。
4	発表	<p>伝えたいことがはっきりわかるように発表をしたり、友達の発表の良いところを見つける。</p> <p>めあて</p> <p>(話し手) 視線、声の大きさ、読む速さなどに気を付けて発表する。</p> <p>(聞き手) 話し手の伝えたいことは何かを聞き取ったり、発表の良い点を見つけたりする。</p>	<p>* 聞き手の数を徐々に増やしていったので、発表が苦手な子ども達でも、緊張しすぎることなく、少しずつ発表すること慣れていくことができた。</p> <p>* クラス全員の前でなく、少人数の前で発表することで緊張せず、楽しく発表出来ていた。</p> <p>* 発表するたびに友達から丸をもらったり、よいところを書いてもらったりすることにより、次の発表の励みにもなっていた。</p>

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 4つのステーションの説明を口頭だけでなく、視覚的に図なども使ってすると更に分かりやすかった。 * 「折り紙ステーション」で全員が「犬」を折るようにしたが、折り方が簡単すぎたので、アイマスクをしていても、していなくても簡単に折れてしまった。もう少し複雑なお題（例えば、鶴など）にした方が、目が見えないことの苦労さが体験できるたように感じた。 * 「手話コーナー」の動画をiPadで見せたが、画面が小さくて見にくかったため、大きめの画面で再生した方が子どもたちには分かりやすくて良い。 * ワークシートの書く欄が狭かったので、調べる課題を書く際に、点字、盲導犬、手話など単語のみで終わる子が多く、机間巡視の際に詳しく書くように指示する必要が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> * 4つのステーションで、とても楽しそうにそれぞれの活動に取り組んでいた。 * 「手話ステーション」で覚えた手話を積極的に使っている様子が見られた。 * 「点字ステーション」では、濁点や伸ばす音など五十音以外の特別な表記の名前の児童も自分で資料を探し出して自分の名前を点字で書き表したり、「家族全員分の名前を書きたい。」など、積極的に活動に取り組めた。 * 国語の授業はどちらかというと嫌がる子供が多いが、本時の後はもっとやりたい、授業時間が短く感じた感想を言う子もいた。
<ul style="list-style-type: none"> * 説明をわかりやすくするための写真や資料を使う子ども達と使わない子ども達がいたので、こちらに関してももう少し家庭に協力を求めるべきであった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保護者へ協力の依頼メールをしてあったので、ほぼ全員が色カードを書くことができた。これが、次時の課題（発表原稿を書く）にスムーズに繋がった。
<ul style="list-style-type: none"> * 「初め」の部分に「呼びかけ」を入れるための指導の工夫が足りなかったため、机間指導の際に個別に指導をする必要があった。 * 家庭では保護者の協力を得られる利点はあるが、保護者がほとんど書いてしまうケースもあるので、自らの力で書く活動の時間を取るような工夫が必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> * クラスみんなが書いているので、「自分もがんばらなくては！」と頑張っている姿が見られた。
<ul style="list-style-type: none"> * 保護者巻き込み型の自宅練習を想定していたが、夏休み明けから毎月一回の割合で記述のプロジェクトが続き、保護者の関心が薄れている家庭もあった。 * 発表の原稿を読むことが初めてにもかかわらず、発表時間が3分と長かったので、1分ぐらいにすればどの子供ももっと積極的に練習に取り組めたように感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 発表原稿をすらすら読めるよう練習を何度もやったことがうかがえる児童もいた。
<ul style="list-style-type: none"> * 聞きながら記入する「振り返りシート」の項目は少なめの方が、友だちの発表を聞くことに集中できてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 友だちの発表を聞くときに記入する「振り返りシート」を書くことに忙しそうで、きちんと発表自体が聞けていなさそうな子ども達もいた。 * 初めは一人、次にグループと段階を踏んで聞き手を増やしたので、家庭で練習する際の不安が薄れ、できたことに対して達成感を感じたと振り返りのワークシートに感想を書いている子もいた。 * 発表に意欲的な子供の中にはグループ発表だけでは物足りず、クラス全員の前で発表をしたいという子もいた。

写真と文で活動を伝えよう！

～リーフレット/PPT/VTRでPR～



関連する教科書単元 国語（光村）4年下「クラブ活動リーフレット」を作る

1 目 標

単元の目標

- 自分たちの補習授業校や現地校・地域での活動のよさに気づき、写真と文で他地域の友達に伝えようとする。
- 書こうとすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。
- 句読点を適切に打ち、段落の始めなど必要な箇所は行を改めることができる。

日本語の目標

- ① 「～には〇〇と□□があります。」の文型を使って、伝えたい内容のよい点を示すことができる。
- ② 「～。また、～。」「このように～」の文型を使って、段落を分けて書くことができる。

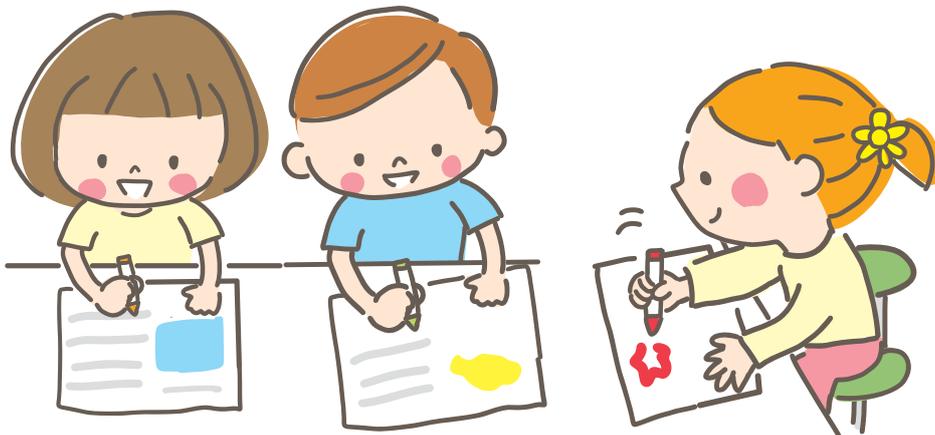
2 学習課題と活動

学習課題

- * 説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝えよう。

主な学習活動

- ① 説明する相手と内容を決める。
- ② 文章の組み立てを考える。
- ③ 説明する文章を書く。
- ④ リーフレット/PPT/VTRを作成する。
- ⑤ クラスで発表をする / 他地域の友達に伝える。



3 学習活動計画

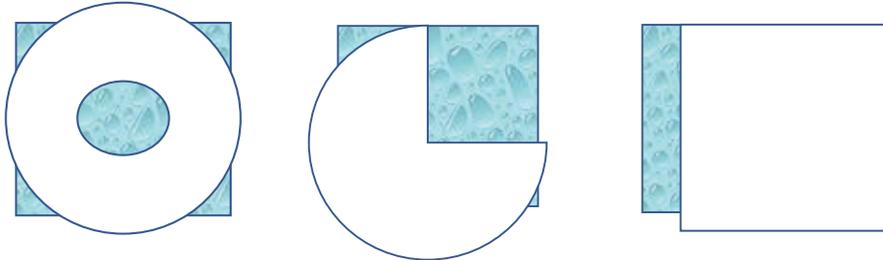
時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	めあて 伝えたいことを話し合おう。 * ブレインストーミングとして、ペア/グループで、伝えたい活動の写真を使って「これはなんでしょうゲーム」をする。 ヒントを出したり質問をしたりしながら、活動の詳細を確認したり伝えたい内容を膨らませたりする。	* 前単元「アップとルーズで伝える」に関連させ、現地校や現地の活動等の写真を活用する。 * ゲームでは、それぞれの活動のよさについても質問し合うようにする。 * ワークシートに学習計画を書き込むようにする。 * 日本語に課題のある子どもは、付箋にキーワードを書いて写真に貼ってよいことを伝える。 * PPT や VTR を選択した子どもは PC やタブレット等を使用してよいことを伝える。
	学習計画を立てる。	* 伝えたい相手と内容・伝え方を決める。 伝えたい相手：他のクラスの友達、他の補習授業校の友達等 内容：現地校の活動、補習授業校の行事、クラブ活動等のよさ 伝え方：リーフレット、PPT、VTR 等	
	伝えたい内容をカードに書く。	* 文章の組み立てを考える。 よいところ①②のキーワードを考える。 * 初め・中・終わりのカードにキーワードや文を書く。 (初めのカードは1枚、中のカードは2枚、終わりのカードは1枚)。	
	家庭学習課題	* 家庭学習課題の内容を確認 必要な情報を取材する。	* 学習計画のワークシートに、保護者からの励ましメッセージ/サインの欄も設ける。
3	説明する文章を書く。	めあて 説明のしかたや文章を工夫しよう。 * 取材したことから必要なことを選んだり、整理したりして写真と文章を対応させ、知らせたいことを説明する文を書く。 * 前時に作成したカードやモデル文を参考にしたり、モデル文アレンジしたりして、伝えたい活動にあう文を考える。 * 段落ごとに文章を書く。 * 写真と文章を組み合わせてリーフレット/PPT/VTR に仕上げる。	* 日本語に課題がある子どもには、「～には〇〇と□□があります。」「～。また、～。」「このように～」などのモデル文を示したカードやワークシートを提示する。 * PPT や VTR を作成する子どもには、文章に加え、音声も挿入してよいことを伝える。
	家庭学習課題	* 家庭学習課題の内容を確認 「これから～の発表をします。」「これで～の発表を終わります。」の挨拶も含めて、発表の練習する。	
4	リーフレット、PPT、VTR を発表する。 学習を振り返る。	めあて リーフレット/PPT/VTR で伝えよう。 * 出来上がったリーフレット/PPT/VTR を発表し合う。 * 友達のリーフレット/PPT/VTR の良いところを話し合う。 * 説明のしかたの工夫や分かりやすく伝える文章について整理する。	* 評価の観点を示したオーディエンスカードを用意しておく。 * 発表の形態ごとに、コーナーを特設してもよい。 * PPT は印刷したものをリーフレットとして発表してもよい。

バリエーション

- 事前準備 : 事前に学級通信等で本単元のねらいや学習計画を伝え、写真や取材等の準備ができるようにする。
- 「つかむ」・「書く」段階 : 社会科や総合的な学習の時間の学習とも関連させて内容を選択する。
- 「発表する」段階 : 他のクラスや他の補習授業校の友達と合同で発表会を行う。ICTを活用する。
- その他 : 本単元で学んだ「初め・中・終わり」の説明の仕方を、他の単元や教科学習でも活用する。

「これはなんでしょうゲーム」について

- * 子どもたちが持参した写真のある部分だけを見せて、何の活動をしている写真か推測して当てるゲーム。
- * 単純に紙を重ねて隠してもよいし、穴あけ等の形で隠してもよいので、見えない部分を作って、何をしている写真かを当てます。例えば、こんな感じで↓



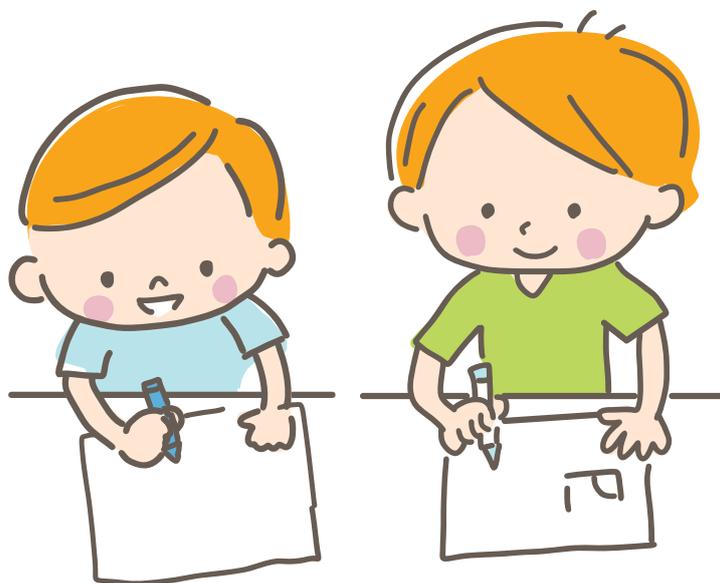
- ※ 1 少しずつ動かして見える部分を増やしていくと、写真への注目度が高まるので、効果的です。
- ※ 2 何の活動をしている写真かを推測するためのヒントを与えたり、質問したりしても良いことにします。そうすることで、日本語でのやりとりのバリエーションが増えたり、新たな発想を誘発したりすることができます。
- ※ 3 このようなやりとりを通して、持参した写真に写されている補習授業校や現地校・地域の活動などの良さについて確認したり詳細を思い出したりして、伝えたい内容を膨らめることをねらっています。

PPT や VTR で表現することについて

- * PPT はスライド 4 枚程度でできるものを想定しています。子供の力量によってはスライドを増やしても構いません。ただし、リーフレットの構成に習って、「初め・中（2 段落）・終わり」の構成で、わかりやすく作成するようにします。
- * VTR の場合は、カードや写真の提示に合わせて説明する文を読み上げていくというように、簡易な作り方を基本とします。
- ※ 子供の日本語力や IT スキルに合わせた表現方法を子供が自分で選択できるとよいでしょう。
- ※ 日本語で文章を書くことに抵抗がある子供や、考えるスピードに手書きの速度が追いついていけないような子供は、PC やタブレットを活用することで、そのストレスを軽減することができます。学習意欲を高めたり継続させたりすることに効果的です。（最近、特別支援教育でもこのような IT の活用が進められようとしています。）
- ※ 日本語力向上のみならず、バイカルチュラルであることの利点を最大限活かせるようにすることをねらっています。現地校での学習により、IT スキルや表現スキルのレベルが高い子供達もいます。そのような力を活かすことで、より魅力的な発信ができ、それが自己肯定感を高めることにもつながると考えています。

他地域の友達への発信について

- * 他地域の友達への発信方法も様々です。例えば、リーフレットや PPT・VTR のコピーを送り感想を伝え合う。ICT を活用して他の補習授業と一緒に発表会をする。AG 5 ウェブサイトや Facebook に作品を投稿して感想をフィードバックしてもらう。などが考えられます。
- ※ 補習授業校のネットワーク構築が進められようとしている今、他の補習授業校の友達に伝えるという活動を設定することがそれほど難しいことではなくなってきました。実際、小 4 学年研究会では、本単元の公開授業を協力校の先生方が参観されます。この機会も有効に活かしたいと考えています。
- ※ 自分たちが知っている地域の中での発表も良いのですが、補習授業校の多様性をうまく使ったり自分の地域と比較したりすることによって、子供たちの学びがさらに広がり深まっていくことが期待できます。このような学び方は、グローバル人材育成にはとても効果的でしょう。



自分の考えをつたえるには ～おすすめの場所は？～



関連する教科書単元 国語（光村）学年4年上 自分の考えをつたえるには

1 目標

単元の目標

- 自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を書くことができる。
- 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。
- 書いたものを読み返し、句読点や段落などに気をつけて書くことができる。

日本語の目標

- ① 「～なら○○がいいと思います。」の文型を使って、自分の考えの中心を伝えることができる。
- ② 「その理由は～からです。」 「なぜならば～からです。」を使って自分の考えを説明することができる。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 読む人が行きたくなるように、自分の考えがはっきりと伝わるように書こう。

主な学習活動

- * サイコロゲームをして、おすすめの場所への関心を高める。
 - ①家族で遊びに行くなら ②スポーツをするなら ③買い物をするなら ④・⑤・⑥～するなら
(a: 自分の家の近くで b: ダラスで c: ダラスの近くで)
- * はじめてダラスに来る友達には、どの場所をおすすめしたいか話し合う。
- * なぜその場所がおすすめなのか、理由や事例、組み立てを考えて意見文を書く。互いの意見文を読み合う。



3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	めあて おすすめの場所を話し合おう。 ● グループで「サイコロゲーム」をする。(サイコロを振って出た面のテーマについて話すことで、経験を思い出す。)	* 写真を複数提示して関心を高めるとともに、その他の場所にもイメージを膨らめるよう、子どもの自由な発言を促す。
	学習計画を立てる。 カードに書く。	● はじめてダラスに来る友達にはどこがおすすめか考える。 ● 学習計画を立てワークシートに書く。 ● おすすめの場所カード(白)、理由カード(黄色)と事例カード(青色)の書き方を知る。 ● 理由カードと事例カードの例を参考にして、考えたことや経験したことを各カードに書く。	* おすすめしたいテーマ①～⑥とサイコロゲームの仕方を示したカードを提示する。 * 「～なら～がいいと思います。」「理由は～からです」等の文カードを提示する。 * 「事例」は自分の体験を入れると良いことを伝える。
2	家庭学習課題	● 家庭学習課題の内容を確認 * 理由カード・事例カードを見直したり書き足したりする。	* カードには「理由」「事例」の表示と縦書きの野線を付ける。
3	組み立てを考える。	めあて 読む人が行きたくなるように、自分の考え(意見文)を書こう。 ● 理由と、それに関する事例を書いたカードを整理し、組み立てを考える。	* 段落相互の関係を視覚的につかめるように、デジタル教科書やプロジェクターを活用する。
	意見文を書く。	● P88「たいせつ」P86の作例を参考に、意見文を書くときの組み立てを学ぶ。 ● 自分の考えをはっきりと伝えるために、理由と、それに関する事例を挙げて、段落を分けて書く。	* 文章にするのが苦手な児童には、つなぎ言葉を記したワークシートを活用する。 * 早く仕上げた児童には、第2第3のおすすめの場所について書いてよいことを伝える。
4	意見文を読み合う。	めあて 友達や自分の意見文のいいところを見つけよう。 ● ペアの相手を変えて意見文を読み合う。(一人3回以上)	* 読み合う回数を増やすことで日本語での発表に自信が持てたり、多様な考えを知ったりすることができるようにする。
	学習を振り返る。	● 「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」「おもしろいで賞」などを例にして、互いの意見文の良さを認め合う。 ● 自分の考えを相手に伝える文章を書くときに、どんな組み立てで書けばよいかを整理する。	* 9月に編転入する児童に活用してもらうことを確認する。

バリエーション

事前準備

: 単元に入る前に学級通信等で取り上げたい話題を募集しておく。

「つかむ」・「書く」

段階: 取り上げたい話題や理由・事例・意見文を、タブレットで表現する。

「発表する」

段階: 意見文はテーマごとに教室の各コーナーに掲示する。意見文の横には「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」「おもしろいで賞」などのカードを入れるための封筒も付けておく。他のクラスと合同で発表会を行う。ガイドブックにする。ICTを活用し協力校の友だちに向けて発信する。クラスの代表の意見文をウェブサイトに投稿する。

4

授業実践の振り返り

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	<p>めあて おすすめの場所を話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループで「サイコロゲーム」をする。(サイコロを振って出た面のテーマについて話すことで、経験を思い出す。) ● はじめてダラスに来る友達にはどこがおすすめか考える。 ● 学習計画を立てワークシートに書く。 ● おすすめの場所カード(白)、理由カード(黄色)と事例カード(青色)の書き方を知る。 ● 理由カードと事例カードの例を参考にして、考えたことや経験したことを各カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> * サイコロゲームする時に、「これから、みんなでおすすめの場所についてプレインストーミングをするよ。」と説明をする必要がなく、自然と活動が進行していった。サイコロゲーム中は、クラスに活気があって良かった。 * サイコロゲームで、おすすめの方法についてしっかりと考えたので、色カードを書く段階でスラスラと自分の考えが書けていた。 * ワークシート1の「(自分の考えの中心を)どうやって書くの?」と質問があった時に、囲み枠内の文例(～なら、～がいいと思います。)が役に立った。そこを埋めることはよくできた。
	学習計画を立てる。		
2	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習課題の内容を確認 * 理由カード・事例カードを見直したり書き足したりする。 	
3	組み立てを考える。	<p>めあて 読む人が行きたくなるように、自分の考え(意見文)を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理由と、それに関する事例を書いたカードを整理し、組み立てを考える。 ● P88「たいせつ」P86の作例を参考に、意見文を書くときの組み立てを学ぶ。 ● 自分の考えをはっきりと伝えるために、理由と、それに関する事例を挙げて、段落を分けて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> * 日本語に課題がある子どもたちにとっては、まず色カードにキーワードや短い文を書かせ、次に色カードをもとに構成シートを書き、最後に原稿用紙に清書するのは有効な手段であると思った。 * 今まで「書く課題」は、授業でさっと説明をして、宿題として「書く課題」を出していた。そうすると、自分一人で書こうとする力がつきにくかった。今回のように、手順を踏んで授業中に「書く課題」まで取り組ませると、自分でしっかりと考え書こうとして大変効果的だった。
	意見文を書く。		
4	意見文を読み合う	<p>めあて 友達や自分の意見文のいいところを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 互いの意見文を読み合う。 ● 「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」「おもしろいで賞」などのカードを各意見文の封筒に入れる。 ● 自分や友達の意見文のよかったところを話し合う。 ● 自分の考えを相手に伝える文章を書くときに、どんな組み立てで書けばよいかを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 日本語力に課題があり自分では思うように書けない子どもでも、意見文を書いて発表出来たのは素晴らしいかった。 * 一人一人前に立って発表するのではなく、ペアの相手を変えて意見文を読み合ったので、発表回数が増えて良かった。(一人3回) * 学習課題の「読む人が行きたくなるように、自分の考えをはっきりと伝えるように書こう。」が達成できたと感じた。
	学習を振り返る。		

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 先に教師が「先生のお勧めのレストランは～」と例文を言ったために、子ども達はそのアイデアから抜けられなくなり、発想が広がりにくかった。レストランのことばかり発言していたので、教師が先に例文を言うのではなく、始めから子ども達に自由に考えさせれば良かった。 * オレンジと緑のカードを書く時に、「理由」と「事例」が区別できなかった子ども達が多かった。 * 色カードには長い文章を書くのではなく、キーワードや短い文で書くように指導しないと、もともと書く力のある子どもたちは、長い文章で書いてしまう。その時に、「事例」と「理由」が混同してしまうようだった。 	<ul style="list-style-type: none"> * クラス全体の発話が多かった。 * リラックスしておしゃべりしたことで、楽しくできていた。 * サイコロゲームをグループでした後に、一人一人が自分の考えの中心（～がなら、～がいいと思います）を発表したことで、お互いの考えが交流でき、発想の幅が広がったようだ。 * 「事例」の意味がよく理解できずに、戸惑っていたようだ。
	<ul style="list-style-type: none"> * 宿題で色カードを書いてきた日本語力に課題がある子どもは、親が書いてくれた文（教えてくれた文）が読めずに、清書の原稿用紙に書けなかった。
<ul style="list-style-type: none"> * 色カードを横書き（現地校では毎日横書きのため）で書いていた子ども達が多く、ワークシート1と色カードを活用して文章を組み立てる時に、上手く色カードを並べられていないケースも見られた。色カードは「縦書きだよ。」と明確に指示を与えておくと良かった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> * ワークシートや色カードに縦書きか横書きかがはっきり分かるように罫線を入れると良いと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> * 限られた時間の中で、一生懸命に書こうと原稿用紙に向かう姿が見られた。日本語力に課題がある子ども達も、そうでない子ども達と比べると短めの意見文だが「はじめーなかーおわり」を意識して書けていた。
<ul style="list-style-type: none"> * それぞれの賞の賞状などがあると良かった。 * 友達の意見文発表を聞いている時に、メモを取れる用紙があると良かった。 * 特定の子どもたちにだけ賞がかたまらないように、ペアで読み合って、お互いに何かしらの賞をあげる方法も効果的であると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> * 一生懸命書いたものを読んでいた。聞いた方は、「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」等の付箋をあげて、感想を言ったり、質問したりしていた。3回ペアを替えてしたので、よく練習できたと思う。 * 子供達の感想は、「ダラスズーに行ってみたくなった。なぜなら、キリンに餌をあげられるから。」などがあつた。友達の意見文に興味を持って、聞いていたと思う。

小4 学習活動案1の振り返りのポイント

導入の大切さ

子供の興味関心・書くことへの動機付け

- 導入で子どもたちの興味関心を高めたり、友達と楽しく話せたりすることが刺激となり、自分の考えがクリアになって、子どもの内面から書きたいことが湧き起こり、その後の「書く課題」へのモチベーションへと繋がった。
- 少人数の補習校では、ゲームをしなくても、文章を書く前に全員でなるべくたくさんの意見を出し合えるよう時間をとることで効果があった。
- 日本語力のレベルに差があっても柔軟に対応できた。

展開の工夫

カードを活用したスモールステップ

- 作文が苦手な子どもたちでも、カードを使って、そこから肉付けしていくことで、段落やバランスを意識した文章が書けることを学ぶことができたのではないかと思う。
- 子どもたちがカードに集中して抵抗感がなく取り組み、教師も机間巡視で助言をするときカードを手にとって見て指導しやすかった。
- 苦手なカタカナや漢字も使って書こうとする意欲が見られた。
 - * 理由と事例を一緒に書いてしまっている子供がいたため、カードを工夫する必要がある。
 - * 教師のモデル文や友達の参考例に影響される子供もあり、このような子供の考えが広がらなかったことは課題。
 - * ワークシートは、子供によっては unnecessaryな項目があるため、仕上げは原稿用紙にした。

家庭学習

- 授業で学んだことを家庭学習でも生かすように、違うテーマで同じ意見文を書く課題を出し、「なぜかという〜」というように違う別の表現を使った。
- 子どもたちがカードに集中して抵抗感がなく取り組み、教師も机間巡視で助言をするときカードを手にとって見て指導しやすかった。
- テーマを音読課題にも関連付けた。
 - * 家庭での課題（カードに事例を書くこと）が分からず、保護者から問い合わせがあった。

まとめ

- 発表は、ペアで3回行った。友達の意見文を読めない子供もいるので、聞いて理解できたり繰り返し発表したりできるのがよかった。
- 早く終わったペアには理由等も伝え合うよう指示して、個々のレベルに合わせて学習を深められるようにした。

その他

- 学習活動の時間設定にゆとりがあり、子供も教師も無理なくできた。教師の準備にかかる負担が少なく、楽しく実践できた。
- 今回の実践で最も良かったことは「子供たちが書くことを楽しいと思えたこと」。
- ダラスの4年生は3クラスあるので、主な学習活動は同じでも、各クラスの実態に合わせて工夫している。
- 今回の学びはどの単元でも応用できる。スキルを身につければ、時間も短縮できる。
- 毎回というわけにはいかないが、今回のような学習活動も経験させることは有効。

国語

小学校
4
年生

自分の考えをつたえるには ～遊園地か海水浴か～

関連する教科書単元 国語（光村）学年4年上 自分の考えをつたえるには

1 目標

単元の目標

- ① 文章を書くときの組み立て「はじめ」「中」「終わり」を確認する。
- ② 書こうとすることの中心を明確にし、理由や事例を挙げて書く。
- ③ 友達の意見文を聞き、感想を持つ。

2 学習課題と活動

主な学習活動

- ① 学習課題「自分の考えがはっきりつたわる意見文を書こう」をつかむ。
- ② 教科書で学習内容を確認しながら、意見文のテーマである「夏休みに家族で行くなら、遊園地と海水浴のどちらがいいか」を考え、意見を出し合う。
- ③ 文章の組み立てを確認する。
- ④ 緑のカード1枚とピンクのカード4枚を配布する。緑のカードには自分の意見を、ピンクのカードには、その理由を一つずつ書く。書きあがったら、ピンクのカードを理由の強い順から並べ、1～3枚目を意見文に使うことを伝える。
- ⑤ ワークシート（「バリエーション2ワークシート」参照）を配布し、自分の意見と理由を書いていく。このとき、理由とともに、事例や経験談などを付け加えることを確認する。
- ⑥ 意見文を聞き合う。友達の意見文に対して、配布した「なるほど！」カードと「行ってみたい！」カードのどちらかを貼り付ける。
- ⑦ 学習を振り返る。

追記

- 生徒数が3名であったため、グループに分けて活動することは不可能であった。文章を書く前に、全員でなるべくたくさんの意見が出し合えるよう、時間をとった。
- 生徒が興味を示すように、写真や絵を表示したり、色のカードを使ったりした。
- 当日の家庭学習として、違うテーマで同じ意見文を書く課題を出した（添付2参考）。授業では、「理由が三つあります。一つ目は～」という書き方に対して、宿題では、「なぜかというところ～」というように違う表現を学習。また、テーマにある「キャラ弁」は、音読課題にも出てくるため、関連付けた。

※ この活動案は、セントルイス補習授業校から提供いただいたものです。

自分の考えをつたえるには ～たいせつな水～

関連する教科書単元 国語（光村）学年4年上 自分の考えをつたえるには

1 目 標

単元 の 目 標

- 自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を書くことができる。
- 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。
- 書いたものを読み返し、句読点や段落などに気をつけて書くことができる。

日本語の目標

- ① 「～なら～と思います。」の文型を使って、自分の考えの中心を伝えることができる。
- ② 「その理由は～からです。」「なぜならば～からです」を使って自分の考えを説明することができる。

2 学習課題と活動

学 習 課 題

- * 自分の考えがはっきりと伝わるように組み立てを考えて書こう。

主な学習活動

- * 身近な水問題・世界の水問題について話し合う。
- * 水を大切にするための自分の考えを決める。
- * 理由や事例、組み立てを考えて意見文を書く。
- * 友達の意見文を読み、よいところを話し合う。

3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	めあて 水を大切にするためにわたしたちができることを話し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> * 社会科の学習「水はどこから」と関連させて、どのようなことが問題になっているか振り返る。 * 現地校で学習したことやニュース等から理由や事例を探してもよいことを伝える。 * 「～なら～と思います。」「理由は～からです」等の文カードを活用して、自分の考えを伝えられるようにする。
	学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な水問題・世界の水問題を振り返り、自分たちにできることを話し合う。 ● 自分の考えの中心を決める。 ● ペア・グループで自分の考えを伝えあう。 	
2	カードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見文を書くための学習計画を立てワークシートに書く。 ● 理由カード（黄色）と事例カード（青色）の書き方を知る。 ● 理由カードと事例カードの例を参考にして、考えたことや経験したことを各カードに書く。 	
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習課題の内容を確認 * 理由カード・事例カードを見直したり書き足したりする。 	
3	組み立てを考える。	めあて 自分の考えがはっきり伝わるように、意見文を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> * 段落相互の関係を視覚的につかめるように、デジタル教科書やプロジェクターを活用する。 * 文章にするのが苦手の児童には、つなぎ言葉を記したワークシートを活用する。
	意見文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ● 理由と、それに関する事例を書いたカードを整理し、組み立てを考える。 ● P88「たいせつ」P86の作例を参考に、意見文を書くときの組み立てを学ぶ。 ● 自分の考えをはっきりと伝えるために、理由と、それに関する事例を挙げて、段落を分けて書く。 	
4	意見文を読み合う。	めあて 友達や自分の意見文のいいところを見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> * 意見文はテーマごとに教室の各コーナーに掲示する。意見文の横にはカードを入れるための封筒も付けておく。
	学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いの意見文を読み合う。 ● 「びっくりしたで賞」「役に立つで賞」「グッドアイデアで賞」などのカードを各意見文の封筒に入れる。 ● 自分や友達の意見文の内容や組み立てでよかったところを話し合う。 	

バリエーション

- 事前準備 : 単元に入る前に学級通信等で取り上げたい話題を募集しておく。
- 「つかむ」・「書く」段階 : 取り上げたい話題や理由・事例・意見文を、タブレットで表現する。
- 「発表する」段階 : 他のクラスと合同で発表会を行う。ガイドブックにする。
ICTを活用し協力校の友だちに向けて発信する。
クラスの代表を決めて意見文をウェブサイトに掲載する。
- 〈ウェブサイトの活用〉 NHKforSchool

発見!わたしたちのテキサス(第1章)



関連する教科書単元

国語(光村)4年上

⑤調べたことを整理し、発表しよう

社会(東書)3・4年下

⑦私たちの県

1 目 標

単元 の 目 標

- 社会 地域によって特色が違うことに興味をもち、自分とかかわりのある地域の特色やよさを考え、まとめる。
- 国語 相手や目的に応じて筋道をたて、適切な言葉遣いで話す。

日本語の目標

- ① 特徴を表す表現・語彙を使って、自分とかかわりのある地域の特色・よさを表現することができる。
- ② 相手に正確に伝わる話し方を知り、わかりやすく話すことができる。

2 学習課題と活動

学 習 課 題

- * わたしたちのテキサス州を知ろう。

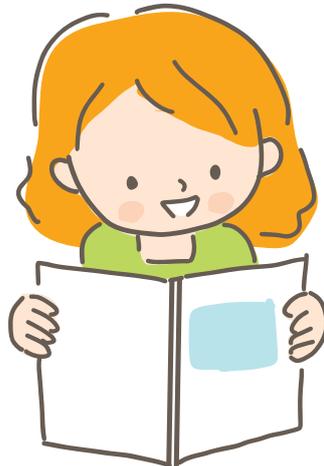
主な学習活動

- * テキサス州について調べて分かったことをクイズ形式で楽しく伝える。
- ①地形 ②土地利用 ③主な市や町 ④交通の広がり ⑤主な産業

State of Texas



Dallas



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。 学習計画を立てる。	<p>めあて 自分たちが住んでいる地域の特色に注目しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特色を調べる観点を確認。社会⑦「私たちの県」をもとに注目するポイント「主な学習活動」①～⑤を確認する。 ● テキサス州の既習知識の確認。児童が挙げた既習知識が①～⑤のどれに分類されるかを確認する。 ● 今後の流れを確認 <ul style="list-style-type: none"> * 単元の最後に「ジョパディクイズ大会」でわかったことを発表する。 * 5名1組のチームを作り、①～⑤の担当者を決定する。 * ①～⑤の各担当者は、次の時間までに自分が担当する観点について詳しく調べてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 表現の確認 教科書を参考に、地域の特色を表現するために使われる表現を確認する。 (例)「～に面している」、「～がさかん」、地形を表す語彙他 * 批判的思考 「地域の特色」を視点に日本とアメリカを比較して考えるきっかけを作る。 * リソースの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地校の既習知識 ・ ガイドブック ・ インターネット ・ 身の回りの人々
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習課題の内容を確認 <ul style="list-style-type: none"> * 自分が担当する観点についてテキサス州の情報を調べてくる。 * 調べること、調べ方、まとめ方、発表の仕方を確認する。 	
2	調べてきた情報を共有する。	<p>めあて 調べてきたことを相手に伝えよう、尋ねよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テキサス州調べ発表（ジグソー法前半） <ul style="list-style-type: none"> * 各チーム①～⑤の同じ番号の児童が集まってエキスパートグループを結成し、調べてきたことを伝え確認し合う。 * 他のチームメンバーに伝えたい基本情報を選択する。 ● テキサス州調べ発表（ジグソー法後半） <ul style="list-style-type: none"> * もとの5名1組のチームに戻り、エキスパートそれぞれが責任をもって担当した観点の内容をメンバーに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 話し合いの工夫 アクティブラーニングの方法を活用する。 * 情報の整理 エキスパートから聞いた情報を整理するワークシートを活用する。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習課題の内容を確認 <ul style="list-style-type: none"> * 意見文の発表会に向けて、作文を手直しする。 * 意見文の発表会に向けて、ポスターを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 考えた物語の構想を意識し、表現の工夫を取り入れながら書くように留意させる。
3	情報発信の準備をする。	<p>めあて 調べた情報をもとに効果的な質問をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クイズづくり <ul style="list-style-type: none"> * アメリカのクイズショー「Jeopardy!」を紹介し、クイズ大会のイメージをつかむ。 * 再度エキスパートグループに戻り、クイズ大会で使用する質問を難易度1～3まで1つずつ作る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 情報発信の工夫 情報発信方法は様々ある。今回はクイズ形式を用いる。 * クイズ形式で使われる質問の仕方を確認する。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● クイズ大会で発表するための練習をする。 	
4	情報発信 振り返り	<p>めあて 調べてわかった情報を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● わたしたちのテキサスジョパディクイズ大会5名1組のチームでエキスパートからのクイズに答える。 ● 振り返り 活動を通し気づいたことや考えたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> * 観点①～⑤のテキサスの特色について * 調べてきた情報の量や質について * クイズ出題、解答するときの日本語について 	<ul style="list-style-type: none"> * 情報の補完 必要に応じて教師が用意してきたテーマ①～⑤の問題も出題して、基本的な知識が得られるようにする。Exit Quizとしても使える。

第1章の学習活動のバリエーション

調べるテーマを共通にして

- A：テキサスだけでなく、初めから日本の都道府県も調べる対象に含める。
- B：自分とかかわりのある地域として、米国や日本以外に住んだことがある国の都市も含める。
- C：一人1県以上の担当を決めて、1県につき1問の問題づくりをして、日本全国都道府県クイズ大会をする。発展として、テキサス州のクイズ大会をする。

第1章の表現・語彙

◆ 日本語の目標 ①は1章の日本語の目標 ②は2章の日本語の目標

- ① 特徴を表す表現・語彙を使って、自分とかかわりのある州や県の特色・よさを表現することができる。
「～には～があります。」「～は～が多いです。」「～に面して（接して）います。」
「～には～を生かした（利用した）～があります。」「～が有名です。」「～の産地です。」等
- ② 報告書を書くときの、書き方（「問い」と、それに対する「答え」）、「使ってみたい表現」、文章構成などを知り、読み手にわかりやすく書くことができる。
「～には、～と書かれていた。」「～によると、～だそうだ。」
「例えば～。」「～が当たる。」「～ということがわかった。」等
- * 「ルーツの県とテキサスを比較する」を入れる場合「～は～と比べて～が～になっています。」「～については、AとBは～です。」「～については、BのほうがAより～です。」
「～の点で、Aは～ですが、Bはより～です。」「AとBは～という点で同じですが、～については、違います。」

◆ 学習活動計画（1章）の「使用する語彙や表現」

- * これらすべてを教えるということではなく、子どもの実態に応じて語彙や表現を選択して示したり、特色を表現するバリエーションとして紹介したりする。
- * 2章でもこれらをベースに報告書を書く。

0. 単元学習予告と事前課題

ワークシートかプリントに以下の日本語表現を例示する。これらの表現を参考にして分かったことや考えたことを記述できるようにする。

① 地形

< 語彙 > 地形、山地、平野、海岸、～海、方角

< 表現 >

～には～がある。

～県は～県と接している。

～県は～のような形をしている。

～（方角）に～（山、川、平野）がある。（多い、広がっている）

～には有名な～（山、川、平野）がある。

② 土地利用

< 語彙 > 田、畑、森林、しゃ面、山地、平地

< 表現 >

～には～を利用した（生かした）～がある。

～には～（市街地、田、畑）が広がっている。

③ 主な市や町

< 語彙 > 人口、県庁所在地、盆地、～（方角、中央）部、しゅくしゃく

< 表現 >

～市は～県の～（方角）部にある。

～県の県庁所在地はv市である。

～は～から〇〇kmのきよりにある。

④ 交通の広がり

< 語彙 > 交通、高速道路、港、空港、新幹線、鉄道、駅

< 表現 >

～と～は～（橋、高速道路、鉄道）に

～と～は～（船、飛行機、新幹線）によって結ばれている。

⑤ 主な産業

< 語彙 > 産業、農業、商業、工業、水産業

< 表現 >

～市は～の山地である。

～では～がさかんである。

1. 導入

- ◎ 県の～クイズ：上記の調べてきたことを、「問い」にしてクイズにする。

どんな、どのような、どこに、何によって、何が

- ◎ ペアでの発表：「～である」→「～です」「～には、～と書かれていました。」「～によると、～だそうなんです。」

- ◎ テキサスについての調べ学習の告知：「単元学習予告と事前課題」と同様。

2・3. わたしたちのテキサス ふしぎ発見①②

- ◎ わたしたちのテキサスジョパディクイズ大会：「県のクイズ」と同様。

* その他

- ◎ 社会的事象を根拠にして自分の考えを伝える：「～は、～と思いました / 考えました。」

「それは、～の資料によると～だからです。」

「〇〇と□□は、～の点で似ています / 違います。」

など。

発見!わたしたちのテキサス(第2章)



関連する教科書単元

国語(光村)4年上

⑤調べたことを整理し、発表しよう

社会(東書)3・4年下

⑦私たちの県

1 目 標

単元 の 目 標

- 社会 地域によって特色が違うことに興味をもち、自分とかかわりのある地域の特色やよさを考え、まとめる。また様々な地域の特色やよさを比較して考えることができる。
- 国語 書くことを決めて必要な事柄を調べ、調べて分かったことを明確にして文章を書くことができる。

日本語の目標

- ① 特色・特徴を表す表現・語彙を使い、自分とかかわりのある地域の特色・よさを表現することができる。
- ② 報告書を書く時の書き方、使ってみたい表現、文章構成などを知り、読み手に分かりやすく書くことができる。

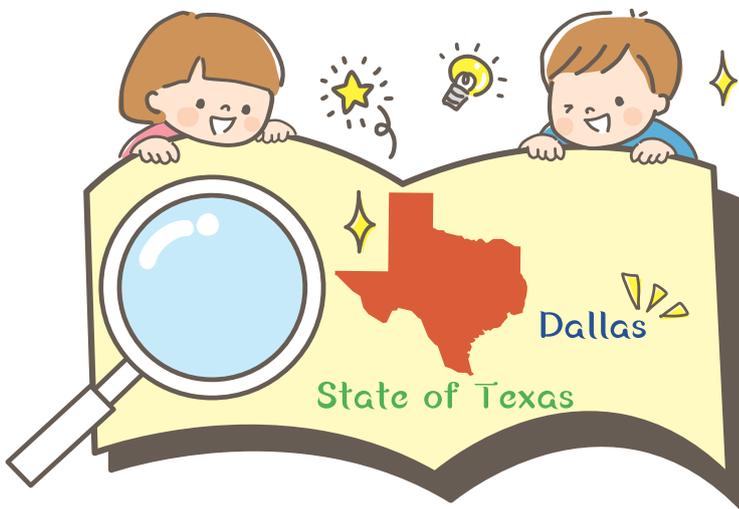
2 学習課題と活動

学 習 課 題

- * 私たちが住んでいるテキサス(自分とかかわりのある地域)の特色やよさを伝えよう。

主な学習活動

- * 自分とかかわりのある地域(テキサス州内の地域や日本の都道府県)の特色やよさを伝える報告書を書く。
- * 報告書をもとに、「伝えよう、これがテキサスのすばらしさだ!(ポスターセッション)」で発表する。
- * 自分が発表した地域と友だちが発表した地域を比べて、それぞれの特色やよさを考える。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	めあて 自分たちの住んでいる地域の特色やよさを発表しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 単元の学習課題をつかむ。 「わたしたちが住んでいるテキサスの特色やよさを伝えよう」 	<ul style="list-style-type: none"> * 報告書、ポスターのサンプル（モデル）、ポスター発表の動画等を示し、学習全体をイメージさせる。
	学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> * 調べること、調べ方、発表の仕方を知る。 ①調べることを決める。②調べる。③報告書を書く。④ポスター作成、発表の練習。⑤ポスター発表。 * 調べる方法を伝える（ワークシート、リソースの活用法等）。 	
	家庭学習課題	自分が興味や関心を持ったテキサスの特色やよさについて、ワークシートに沿って調べてくる。	<ul style="list-style-type: none"> * 現地校の既習事項を活用したり、ガイドブックやインターネット等を活用させる。 * 家庭に事前に学習内容を伝え、協力を要請しておく。
2	報告書を書く。	めあて 調べてきたことを報告書として書こう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 報告書の書き方を教科書の本文やモデル文を見ながら考える。 * 報告書の文章構成、使われる表現を考える。 ● 報告書の書き方をもとに、ワークシートを使って報告書を書く。 * 特産品やよさ表す表現や、報告書に使われる表現を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書等のモデル文を全体に提示し、文章構成や使ってみたい表現を考える。 * ワークシートに沿って、自分が考えたテキサスの特色やよさを報告書として書く。 * ワークシートの「使ってみたい表現」を活用させる。
	家庭学習課題	● 書ききれなかった報告書を仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> * 家庭にお便りなどで事前に課題の意図、取り組み方等を伝え、協力を要請しておく。
3	情報発信の準備	めあて 発表の準備をしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ● ポスターの書き方、注意事項を知る。 * ポスター例を用意し、それを参考にポスターを作成する。 * ポスター作成時の注意事項を知る。 ● ポスターセッションの進め方、発表の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 2の報告書を家庭学習にせず、2時間続きで行い、ポスター作成を宿題に出す事も可。 * 発表する時に使う表現を確認する。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● ポスターの作成をする。 ● ポスターセッションで発表するための練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> * ポスター作成、ポスターセッションの方法も家庭に事前に伝える。
4	情報発信	めあて テキサスのよさを伝えよう。学習をふりかえろう。 <ul style="list-style-type: none"> ● ポスターセッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 発表の場は、授業参観等の行事を活用する。 * 「比較して考える」事を通して学習を深める。 * ルーブリック評価をしながら、何を学習し、どんな力がついたのかに気づかせる。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表を振り返り、学んだことを確認したり、自分の調べたことと、友だちの発表を比較したりして考える。 * ふりかえりシートに個々で記入した後、ペア、グループ、クラスで互いに発表し合いながら深めていく。 * 学習感想、ルーブリック評価で、学習を振り返り、学んだこと、学習の自己評価を確認する。 	

ポスターセッション

⑬ 何で多くの人がテキサスに引っ越しに来るの？

お金の理由
 ・家のねだんがたかくない。
 ・せい金がやわい。ガソリンのねだんがやわい。
 ・インカムタックスがない。

会社としての理由
 ・大きい会社がテキサスに来たから。
 ・いろんな会社が多いから。
 ・しごとが見つけやすいから。

そのた
 ・学校のきょういくがよい。
 ・あんぜんだから。
 ・気候がよいから。

答え: テキサスにすむのはくらしやすいし、ゆたかになるからです。

⑫ 綿花とは

綿花の主な産地

テキサスの産業 **TEXAS** 綿花

綿花のしゅうく

綿花の用途

テキサス州の州花について

ブルーボネット
 小さい花がたてに連なっていて、青色です。
 花には良い香りがしています。

高さ... 20cm~50cm

色 青色
 州花ではないけれど、赤色や白色もありです。

花の形 日本ではとうもろこしの葉に似ています。

昔前の由来 青いほうし (blue bonnet) をさかせる花が由来だそうです。

テキサス州には Blue bonnet trail と呼ぶドライブコースがあるそうです。ユニスと名づけるブルーボネットの町があるそうです。DFW 空域から約1時間。

ダラスと言えば

①ダラスの人口は?
 ・およそ 132 万人
 ・テキサスで3番目の人口の都市

②ダラスは何で有名?
 1927年

③ダラスの場所は?
 テキサスの北東
 姉妹都市は仙台です。

Visit www.elmers.com for project ideas and presentations

テキサスロングホーンはどこから来たのか?

17世紀後半にメキシコからテキサスに入ってきた。
 どうしてテキサスにロングホーンがいるのか?
 コロンブスがアメリカ大陸を発見した時に持ちこんだのがはじまり。

コロンブス

コロンブスのルート

どうしてこんな長いテキサスロングホーンができたのか?
 1861年の南北戦争のあとテキサスは、牧畜ではんえいした。

小さくても 有名だ...

宝塚市

人口は約22万人
 兵庫県にあり
 有名な理由は...

宝塚歌劇

特色① 1915年~
 日本で一番長い歴史の劇団

② 全て女子学生が出演
 ③ 毎年100万人以上の観客数

宝塚治政記念会館

有名でマンが家手少の宝塚出身
 宝塚出身
 宝塚出身の俳優が紹介された

第2章の学習活動とバリエーション

1. 社会科「特色ある地いきと人々の暮らし」のバリエーション

- A：1章のクイズ大会後の話し合いから、特色ある地域の暮らしを探求する視点1～4をつかむ。
- B：1～4すべてをレポートにまとめる。
- C：1と3、1と4のように子どもたちが伝えたい内容を選んでレポートにまとめる。

2. 国語科「私の研究レポート」レポート（報告書）の書き方について学ぶ

- (1) 学習の流れを確認する。
- (2) 調べることを決める（場所とテーマ?）。
- (3) 調べる（調べ方を学ぶ）、分かったことを整理する。
- (4) 文章の型を確かめ、組み立てを考える。

3. 上記(2)～(3)にしたがって書く

4. 発表のバリエーション

目的を明確にすることで、学習意欲を高められるよう、発表の場を設定する / 伝えたい相手を決める。

(JSLの、体験－探求－発信という構造を意識して、設定する。)

- A：授業参観や学校公開で保護者や地域の人に向けて
- B：他学年の子どもたちに向けて
- C：ゲストを招いて
- D：日本の親戚・友達に向けて
- E：他の補習授業校の友達に向けて
- F：世界の友達に向けて（日本語・英語併用で）

すいせんします（話す、聞く）



関連する教科書単元 国語（光村）5年 説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう。

1 目標

単元の目標

- ① 話題に関する情報を集め、目的に応じて、明確に伝わるように、話を構成することができる。
- ② 場に応じた適切な言葉遣いで、話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができる。→（話す、聞く）
- ③ 相手（聞き手）を納得させるようスピーチを工夫することができる。（文や口調の工夫）→（話す）

日本語の目標

- * ぼく・わたしは●●をすいせんします。理由は～だからです。
- * （資料を見せながら）この資料を見てください。これは●●です。××だと思いませんか。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 相手の共感を得られるための文章の工夫や資料の添付をし、すいせんの理由を明確にできる。

主な学習活動

- ① 「すいせんする」意味について知り、考える。
- ② 話題を選び、適切な資料を探す。
- ③ 相手を意識し、スピーチの内容や構成を考え、構成を書く。
- ④ 声の強弱、スピード、間の取り方に気をつけて構成メモに沿ってスピーチをする。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。	単元目標 「ここに旅行に行ってみてコンテスト」でNo1になろう！ 本時のめあて 説得力のあるスピーチの構成や、表現を考えよう。 ① めあてを知る、学習計画を立てる。(P190) ② テーマパークなどの文例を使用し、実際に教員のスピーチを聞いて、紹介(どんな場所)の仕方や優れたところを学級で話し合う。すいせんカードを模造紙に書き、板書したものに答えを書き出していく。(ブレインストーミング) ③ 教科書 P191 を読み、スピーチの構成について考える。→すいせん理由を明確にしていると、説得力があることを振り返る。(P191)	* テーマパークなどを例に挙げブレインストーミングをすることによって、どんな風に説明すると相手に対象物の良さが伝わるか、もしくは伝わりにくい原因を考える。 * 発表の時にコンテスト形式でみんなのお勧めの場所から、「一番行ってみたい場所」No.1を決定することを伝える。
	家庭学習課題	すいせんカードに記入をする。資料を見つける。	* 学級だよりなどで家庭学習の内容を補足説明しておく
2	自分のすいせんする事柄について考え、その理由を明確にする。	本時のめあて すいせんしたい場所(旅行に行くのにオススメのスポット)に合う、説得力のあるスピーチを考えよう。 ① 1時限目の学習の振り返りを振り返りシートを使って行う。 ② すいせんカードをもとに、すいせんする理由をはっきりさせ、整理する。 ③ 振り返りシートを使って学習を振り返る。	* 初め、中、終わりの構成でそれぞれの「内容」に気をつける。 * 日本語力に応じて、異なったスピーチメモを用意する。
3	スピーチメモに基づいたスピーチの工夫を考える。	本時のめあて 説得力のあるスピーチの工夫について考え、スピーチの練習をしよう。 ① デジタル教科書のビデオを見ながら効果的なスピーチの工夫について話し合う。(話す速さ、声の強弱による強調、資料の使い方、間の取り方など)。 ② 「説得力のあるスピーチ」を意識して練習する。 ③ ペアになり発表を聞き合ったり互いに意見を交換したりする。 ④ 振り返りシートを使って学習を振り返る。	* 「説得力のあるスピーチ」の仕方(発表の仕方)を映像で考えさせたりイメージさせたりする。 * 日本語力に応じて発表の際のスピーチメモを利用させる。 * 発表練習はペアで行う。(発表に対する不安感の低減)
	家庭学習課題	「説得力のあるスピーチ」にするために、「スピーチの工夫」を意識して練習を行う。	
4	① スピーチをする。 ② 友達のスピーチを聞く。 ③ 学習を振り返る。	本時のめあて 「説得力のあるスピーチ」を意識して、発表したり友だちの発表を聞いたりしよう。 ① スピーチの工夫について確認する。 ② 1人ずつ発表する。聞くひとは「オーディエンスカード」に発表者のすいせんについて評価を書き留める。(三段階評価) ③ 友達のスピーチについて印象に残ったことを伝え合う。 ④ 振り返りシートを使って自己評価をする。	* 発表する側、聞く側の留意事項を振り返る。 * 全員の発表が終わったらオーディエンスカードを基に気いたことを伝え合う。 * オーディエンスカードは児童にとって、悩む必要がなく、評価できるものを作る。

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
1	学習課題をつかむ	単元目標 「ここに旅行に行ってみてコンテスト」でNo1になろう！ 本時のめあて 説得力のあるスピーチの構成や、表現を考えよう。 ① めあてを知る、学習計画を立てる。(P190) ② テーマパークなどの文例を使用し、実際に教員のスピーチを聞いて、紹介(どんな場所)の仕方や優れたところを学級で話し合う。すいせんカードを模造紙に書き、板書したものに答えを書き出していく。(ブレインストーミング) ③ 教科書P191を読み、スピーチの構成について考える。→すいせん理由を明確にしていると、説得力があることを振り返る。(P191)	* 授業活動案には書かれていないが、まず始めにデジタル教科書のモデルスピーチを見せたことで、これからどんなこと(=説得力のあるスピーチをする)を学習していくのかが、イメージしやすく、子ども達の動機づけに繋がった。文例を見せるだけでなく、実際の動画を視覚的に見せる方が、効果的であった。 * 単元の最後に「コンテスト形式」のスピーチ発表会にしたため、子ども達の競争心がかきたてられ、その後の活動に積極的に取り組んでいた。
	家庭学習課題	すいせんカードに記入をする。資料を見つける。	* すいせんカードの「予想される反論」を考えさせることができて良かった。
2	自分のすいせんする事柄について考え、その理由を明確にする。	本時のめあて すいせんしたい場所(旅行に行くのにオススメのスポット)に合う、説得力のあるスピーチを考えよう。 ① 1時限目の学習の振り返りを振り返りシートを使って行う。 ② すいせんカードをもとに、すいせんする理由をはっきりさせ、整理する。 ③ 振り返りシートを使って学習を振り返る。	* スピーチ発表をする前に、まずは「スピーチメモ」を活用し、説得力のあるスピーチの内容を書かせたのが良かった。 * 「スピーチメモ」の裏の「スピーチお助けメモ」があることで、子ども達にとっては随分と書きやすかったようだ。
3	スピーチメモに基づいたスピーチの工夫を考える。	本時のめあて 説得力のあるスピーチの工夫について考え、スピーチの練習をしよう。 ① デジタル教科書のビデオを見ながら効果的なスピーチの工夫について話し合う。(話す速さ、声の強弱による強調、資料の使い方、間の取り方など)。 ② 「説得力のあるスピーチ」を意識して練習する。 ③ ペアになり発表を聞き合ったり互いに意見を交換したりする。 ④ 振り返りシートを使って学習を振り返る。	* ペアワークの発表の練習で、一人の発表が終わるたびに、聞き手より良かったところと工夫できるところを簡潔に伝えさせた。 例)「資料は手に持った方がいいよ。」と言われた子どもは、次の発表の時にそのアドバイスを忠実に守り、発表が劇的に上達していた。同時にアドバイスをした子どもも同じ点で上達していた。 ↓ 『子ども同士による学び合い・高め合い』 * それまでの活動を通し、スピーチにおいて注目するポイントも学んだ。更に、動画や教師のモデルスピーチを見ることで、子ども達のスピーチ力が上がった。 = 百聞は一見に如かず
	家庭学習課題	「説得力のあるスピーチ」にするために、「スピーチの工夫」を意識して練習を行う。	* 参観日にスピーチ発表を実施したため、それに向けて保護者と共にしっかりと練習をしていた。
4	① スピーチをする。 ② 友達のスピーチを聞く。 ③ 学習を振り返る	本時のめあて 「説得力のあるスピーチ」を意識して、発表したり友だちの発表を聞いたりしよう。 ① スピーチの工夫について確認する。 ② 1人ずつ発表する。聞くひとは「オーディエンスカード」に発表者のすいせんについて評価を書き留める。(三段階評価) ③ 友達のスピーチについて印象に残ったことを伝え合う。 ④ 振り返りシートを使って自己評価をする。	* 「オーディエンスカード」を記入しながら聞いていたことで、友だちの発表の良いところを探そうと真面目に集中して聞いていた。 * トーナメント形式で投票する目的があったため、お互いに真剣に発表を聞き合っていた。 * 3時限目のペア練習で与え合ったアドバイスが友だちのスピーチの中で生かされているか、熱心に聞いていた。

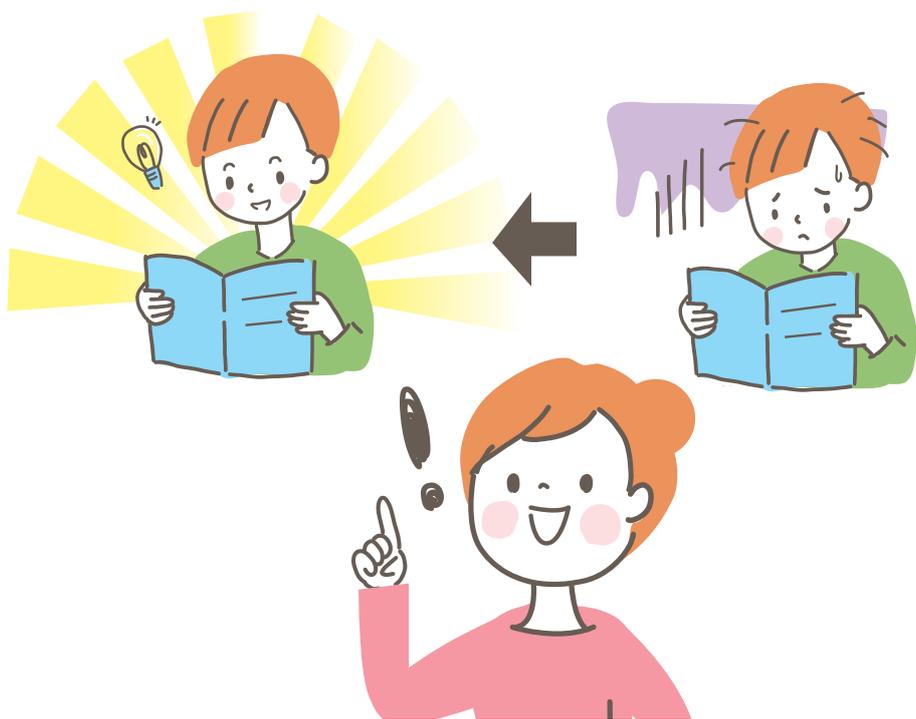
改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * テーマパークなどの文例を見せず、聞かせた後に、その文例について、どんな「スピーチの工夫」が見られるか、ペアやグループで話し合わせれば、更に良かった。（モデルスピーチを見せること、ブレインストーミングの時間をより長くとること） 	<ul style="list-style-type: none"> * 普通の「スピーチ発表」ではなく、順位のつく「コンテスト形式」であったため、普段は消極的な子ども達でさえも、「勝ちたい!!」とすべての活動に主体的に取り組めた。
<ul style="list-style-type: none"> * 児童の日本語の発達レベルに合わせて複数のワークシートを作ったので、この時限に使用できるワークシートの種類が多かった。そのため書かせることに時間がかかり、1時間では収まらなかった。 * ワークシート「スピーチ原稿」はなくして、「スピーチメモ」だけで十分であった。メモ程度にとどまらず、文章で書く子が多く見受けられたのは、事前にスピーチの文例を見ていたからだと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 宿題の「すいせんカード」を元に、一生懸命に「スピーチメモ」を書いていた。 * スピーチ発表が不安な子どもほど、「スピーチメモ」をしっかりと書いて準備をしていた。
<ul style="list-style-type: none"> * ペアでのスピーチ練習の時は、次の流れですと良いと思う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 前後で向かう。 ② 左右で向き合う。（隣同士での練習では、前を向いたまま話し出すペアもあった。前後ペアで先に練習することで、しっかり相手に向き合うことが身に付く） ③ 4人程度のグループ内で、発表者を立たせて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 第1時限から「トーナメントに勝ちたい!!」と意欲を持っていたため、このスピーチ練習にも積極的に取り組んでいた。始めは「(勝たなくても) どうでもいい。」と言っていた子ども達でも、授業が進むにつれて「やっぱり勝ちたい!!」と意欲が増していったように見えた。その気持ちの変化が、学習への取り組み姿勢に良い影響を与えていた。
<ul style="list-style-type: none"> * 全員がスピーチメモを見ずに発表できるように、指導練習をさせると良い。（大半は原稿を見ていた。） * 将来の役に立つような「プレゼンテーション能力」を身に付けさせるために、もっとスピーチ練習を取り入れると良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 資料の見せ方が工夫されていて、とても効果的だった。 * 発表中に笑顔が多かった。 * パワーポイントを使用して発表していた子ども達もいた。（現地校でなれている） * 原稿をまったく持たずに発表をしていた子ども達もいた。

児童のコメント

- * 「スピーチをする時には、資料を出すと言得力がある」と、文例から分かった。
- * 作文を書くことには慣れているが、メモを取ることに慣れていないので、「メモの取り方」が分からなかった。
- * 即興スピーチをすることは不安だったり、間違えたりしたら恥ずかしいと思った。
- * スピーチをする時に、始めは緊張したが、たくさん練習をしたので安心して臨めた。
- * 原稿なしでスピーチをするのは難しいので、ワークシートがあって助かった。
- * (最後の発表が) トーナメント形式なので、楽しかった。
- * スピーチの練習はしたが、やはり本番でも緊張した。
- * (単元全体の学習を通して、他の単元と比べて) 自分で考えることが多かったので、退屈しなかった。

その他

- * すいせんスピーチの投票には、保護者の方にも参加していただけだったので、優勝した児童が勧めた旅先に、一家族早速次の日に行ったようだ。こう考えてみると、優勝した児童のスピーチは成功であったと考えられる。



一まいの写真から ～きみはベストセラー作家!～



関連する教科書単元 大造じいさんとガン わらぐつの中の神様 など

1 目標

単元の目標

- 写真から想像を広げて、物語に書くことを考え、文章全体の構成や表現を工夫して物語を書くことができる。
- 書いたものを発表し合い、構成や表現のしかたに着目して助言し合うことができる。

日本語の目標

- 「～に～が いました（ありました）。」「～は～をしました。」「～は、『・・・』といました。」等の表現を使って物語を書くことができる。
- 情景や気持ちを表す様々な「表現の工夫」を使って文章を書くことができる。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 一まいの写真から想像を広げて物語を書こう。
- * 友だちの物語を読み、POP を書こう。

主な学習活動

- * 今まで学習した物語やゲームをすることにより、「構成の工夫」を考える。
- * 物語構想シートから、物語についての想像を広げたり、構成を考えたりする。
- * いろいろな物語の中の「書き出しの工夫」「気持ちを表す工夫」「情景を表す工夫」を発見する。
- * 想像を広げたり、物語を書くときの工夫（構成・表現）を取り入れたりしながら自分の物語を創作する。
- * 友だちの作品を読み、書評（POP）を書いたり、工夫について意見交換をする。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかみ、計画を立てる。	めあて 物語の書き方を知り、物語を書く準備をしよう。 * めあてを知り、学習計画を立てる。 * 様々な「構成の工夫」をみんなで考える。今まで学習した物語等から、物語の「構成の工夫」を考える * 1枚の写真から想像を広げ、リレー作家ゲーム（ペア、グループ）を行い、物語の内容や構成について、想像を広げる。ペア（グループ）で行った後、学級で披露し合う。 * 自分の物語の写真を決め、想像を広げながら「物語構想シート」を記入する。	* 3時間の学習の流れを示して見通しを持たせる。 * 5年国語教科書に出てきた物語等で物語の構成を考える。 * ゲームをしながら、内容について想像を広げたり、物語の内容や構成について意見交換したりさせる。 * ワークシートで、想像を広げたり、物語のあらすじ・大枠を考えたりする。また、物語のイメージを持たせるよう、簡単なさし絵を書かせる。
	家庭学習課題ワークシートに記入する。	「物語構想シート」を記入してくる。	違う場面構成や違う写真を使って、2～3枚書いてもよい。
2	表現の工夫を考え、それを取り入れた物語を書く。	めあて 表現の工夫を考え、それを取り入れて物語を書こう。 * 様々な「表現の工夫」をみんなで考える。 * 家から持参したり、図書館から借りたりした本から、表現の工夫を発見する。 * 「書き出しの工夫」「気持ちをあらわす工夫」「情景を表す工夫」 * 物語構想シートに沿って、構成を意識したり、学習した表現の工夫を取り入れたりしながら原稿用紙に物語を書く。 * 原稿用紙に書くのが難しい児童は、物語作成おたすけシートを書く。 * 書き終えた作品を見直し、製本する。	* 家にある物語を持参させる。 * 家にある物語や図書館の本から発見した工夫の箇所に付箋紙を貼る。（書き出しの工夫：黄色、気持ちを表す工夫：赤色、情景を表す工夫：青色） * 発見した表現の工夫を発表し合い、共有する。 * 「表現の工夫参考カード」を利用しながら書かせる。 * 学習した表現の工夫をできるだけ多く取り入れながら書くように意識させる。
	家庭学習物語を書く。	書ききれなかった物語の続きを家庭で書き、製本する。（原稿用紙に書くのが難しい児童は、「物語作成おたすけシート」を完成版とする。）	* 考えた物語の構想を意識し、表現の工夫を取り入れながら書くように留意させる。
3	友だちの作品を読んでPOPを作成したり、物語について意見交換をしたりする。 学習を振り返る。	めあて 書いた物語を交流してPOPを書こう！ * 「POP＋工夫発見！カード」の書き方を知る。 * とおり同士で物語を交換し、読後にPOPを書く。 * 書き終わったら、POPを交換し、互いの物語について、意見交換をする。 * （他の友だちと作品を交流し、POPを記入する。） * 友だちに書いてもらったPOPを見たり、ふり返しカードを記入したりして学習を振り返る。	* 書店や図書館にあるPOPの写真を見せ、イメージを持たせる。 * 構成の工夫・表現の工夫に留意してPOPを書かせたり意見交換をさせたりする。 * 書き上げた作品とPOPは授業公開日等に展示し、保護者に見てもらおう。

天気を予想する



関連する教科書単元 国語 5年 グラフや表を用いて書こう

1 目標

単元の目標

- 筆者の論の進め方（「問い→答え」の繰り返し）、図表やグラフ、写真などを用いての説明の仕方、について知り、本文の内容を理解することができる。
- 筆者の「説明のしかたの工夫」を考えることで、効果的な説明の仕方がわかる。

日本語の目標

- ① 「～の表は～をしめしたものです。」 「～のグラフは～を表したものです。」 等、図表やグラフを引用するときの言い方を知る。
- ② 「わたしは～と思います。その理由は～からです。」 「なぜならば～からです。」 を使って自分の考えを説明することができる。

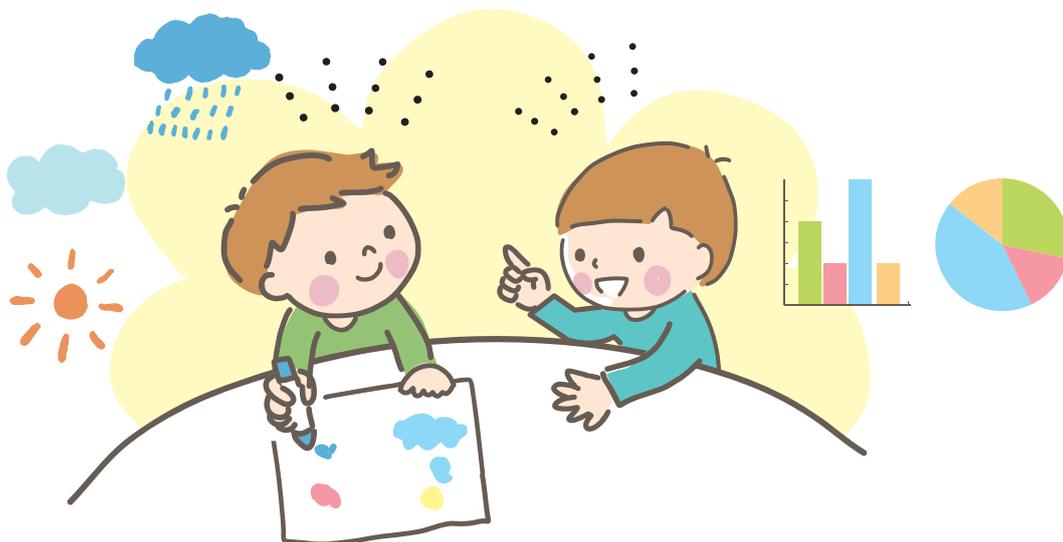
2 学習課題と活動

学習課題

- * 本文の内容をつかみ、「説明のしかたの工夫」を知る。

主な学習活動

- * 本文を読み、「問い」と「答え」をみつけ、およその内容をつかむ。
- * 図表やグラフ、写真をもとに、バラバラになった本文を復元する。また本文をもとに、バラバラになった図表やグラフ、写真を復元する。どうしてその順番にしたのかを、ペアワークで相手に説明する。
- * 本文の中から「説明のしかたの工夫」をみつける。



3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ。 本文を読む。	<p>めあて 「天気を予想する」の内容をつかもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 天気予報について、話題を出し合う。 ● 紙芝居型本文を使い、初読を行う。 ● 3つの「問い」とその「答え」をさがす。 <ul style="list-style-type: none"> * 「問い・答え」ワークシートに、記入する。 ● 完成したワークシートを振り返り、内容を理解する。 ● 筆者の工夫（「問い→答え」を繰り返しながら、自分の考えに読み手を近づけている。図表やグラフを用いて、自分の意見に説得力を持たせている。）を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 段落ごとの紙芝居にすることにより内容理解を支援する。 * 漢字が苦手な児童には、ルビ付きの本文を使用させる。 * 「～でしょうか」という言い方をたよりに「問い」をさがす。 * 児童の実態に応じた2種類のワークシートを用意する。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙芝居型本文を持ち帰り、音読をしてくる。 	
2	ペアワークで、本文を読み取る。	<p>めあて 本文の内容を理解し、説明のしかたの工夫を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「問い・答え」ワークシートをみながら、内容を振り返る。 ● 「図表やグラフ、写真バラバラ事件」を解決する。（ペア・ワーク） <ul style="list-style-type: none"> * 本文をたよりに、図表やグラフ、写真を復元する。 * ペアの相手に、どうしてその順にしたか、理由を説明する。 ● 「本文バラバラ事件」を解決する。（ペア・ワーク） <ul style="list-style-type: none"> * 図表やグラフ、写真をたよりに、本文を復元する。 * ペアの相手に、どうしてその順にしたか、理由を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 図表やグラフを引用するとき言い方（日本語の目標①）に気づかせる。 * 日本語の目標②の表現を使って、ペア相手に説明する。 * 間違っていた場合には、ペア相手が修正し、修正理由を相手に伝える。 * 時間が余ったペアは、本文も、図表等もバラバラにして同じように取り組ませる。 * うまく復元できない児童は、「問い・答え」ワークシートを参照させる。
	「説明のしかたの工夫」を見つける。 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆者が用いた「説明の仕方工夫」を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> * 工夫1：「問い→答え」ということを繰り返し、最後に筆者の考えにたどり着かせている。 * 工夫2：図表やグラフ、写真等を用いて説明することで、読み手を納得させている。 ● 「ふり回りカード」に記入しながら、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 今までの活動を振り返る中で「工夫」に気づかせる。 * 「ふり回りカード」「問い・答え」ワークシートを使って振り返る。

グラフや表を用いて書こう (社会：世界とつながる日本の工業)



～日本の総理大臣になって、日本の自動車産業を考え、意見文を書こう～

関連する教科書単元 国語 5年 天気を予想する 社会 5年 世界とつながる日本の工業

1 目 標

単元 の 目 標

- 自分の意見を伝える、説得力のある文章を書くときの、文章の構成や工夫について考えることができる。
- 意見文を書くときの文章構成や表現を使って、自分の考えが伝わるように書くことができる。
- 意見文を書いたり友だちの意見を聞いたりして、日本のこれからの自動車産業について考える事ができる。

日本語の目標

- 自分の考えを書く：「わたしは～と思います。その理由は～からです。」「なぜならば～からです。」等
- グラフや表を用いる
 - * 何のグラフか、グラフの説明：「～の表は～をしめしたものです。」「～のグラフは～を表したものです。」等
 - * グラフから分かること：「これを見ると～ということが分かります。」等
 - * グラフから考えられること：「～ということは、～と思います。」等
- まとめ・分かったこと：「このように～ということを述べました。」「～は～といえるでしょう。」等。

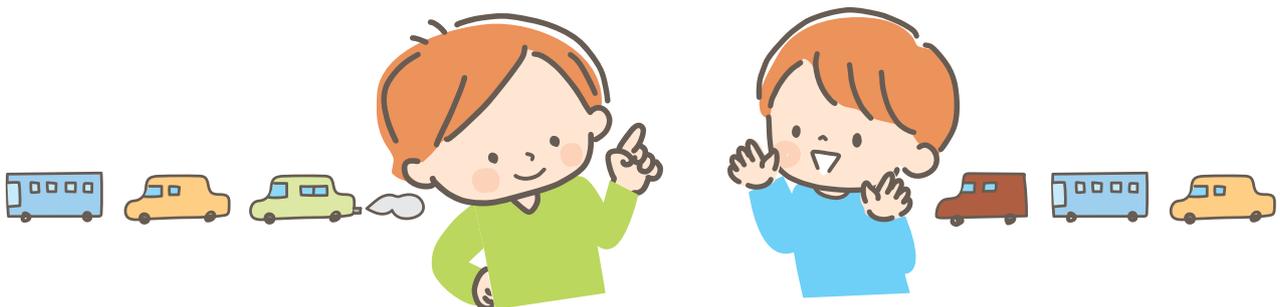
2 学習課題と活動

学 習 課 題

- * グラフや表を根拠に、自分の考えが伝わるように意見文を書く。

主な学習活動

- * 教科書のモデル文を読み、グラフや表を用いながら自分の考えを書く方法を知る。
- * テーマに沿って考えた自分の意見を、グラフや表を用いながら書く。
- * 書いた文を発表し合い、日本のこれからの自動車産業について考える。



3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかみ、計画を立てる。 モデル文を読み、意見文の書き方を知る。	めあて 教科書のモデル文を見て、説得力のある意見文の書き方を知ろう。 ● めあてを知り、学習計画を立てる。 ● 教科書のモデル文を読み、何をどの順序で書いていくのかの文章構成と、その中で使われている表現を考える。	* 本文の拡大コピー（プロジェクターで投影した本文）を見ながら、書き方について全員で考える。 * 漢字が苦手な児童には、ルビ付きの本文を使用させる。
2	テーマから意見を考え、どのように書くか考える。	めあて これからの日本の自動車産業を考え、意見文を書く準備をしよう。 ● テーマから自分の考えを決め、その意見に沿ったグラフや表を選ぶ。 ● 同じ意見ごとにペアを作り、ペアで意見を交換しながら、なぜそのように考えたのか、どのグラフを使って書くか、グラフからどんなことが分かるか等を話し合う。 ● グラフや表から読み取れること、読み取ったことから考えられることを「資料読み取りワークシート」に記入する。	* トランプ大統領の発言から、これからの日本の自動車産業について考える。 * 大統領の発言から、意見を出させ、意見を集約する。 * 友だちと意見を交換しながら、自分の考えを確認したり、グラフから分かることを確認したりする。
3	意見文を書く。	めあて 説得力のある意見文を書こう。 ● 「意見文ワークシート」をもとに、意見文の書き方（文章構成、構成ごとに使う表現）を確認する。 ● 「資料読み取りワークシート」をもとに、「意見文ワークシート」に記述する。 ● 原稿用紙に清書する。	* ワークシートの記入の仕方を確認しながら文章構成、表現等の学習を振り返る。 * 文章構成と、表現を意識しながら記述するよう促す。 * 時間が足りない児童はワークシートを発表用にする。（家庭学習で清書を仕上げる？）
4	自分の意見文を発表したり、友だちの意見文を聞く。 発表を聞いたり意見交換をする中で、自分の考えを深める。 学習を振り返る。	めあて 意見交換会をし、日本のこれからの自動車産業について考えよう。 ● 意見交換会のやり方を確認する。 ● 意見交換会を行う。 ● 友だちの意見文を聞き、「オーディエンスカード」に記入する。 ● 発表をすべて終了後、友だちの意見を聞いて考えたことや思ったことを「ふりかえりシート」に記述したり、自己評価をしたりする。 ● 意見交換会を通して考えた「日本のこれからの自動車産業」について、クラス全体で意見交換をする。 ● 「ふりかえりシート」の学習のまとめを記入する。	* 発表する側、聴く側の時の留意事項を確認する。 * ペアワークで、発表をしたり聞いたりする。 * 自分の意見と異なる意見文を書いた友だちの発表を聞けるよう、ペアをつくる。交代で複数の相手と活動する。 * 今までの学習を振り返って、学んだことを確認し、自分の学習状況を評価する。



関連する教科書単元 国語（光村）6年 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

1 目標

単元の目標

- * 登場人物の関係に気をつけて読み、登場人物の生き方について考える。
- * 「生き方」や「命」について考えを深める。登場人物の相互関係から、心に響くのは何かを考えて読む。
- * 自分の考えを友達の考えと比較して考える。＝対話的な学び
- * 主体的に読む姿勢を身につける。

日本語の目標

- * ～と書いてあるので、～だと考えました（思いました）。
- * ～さんに～～という意見を聞いて、～～と考えました（思いました）。
- * （人物）は、（人物）の～～から～～と影響を受けたと考えました（思いました）。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 【単元を貫く問い】太一はどんな生き方をしたのかを考える。
- * 太一が言葉にしなかった思いをビデオレターにして、登場人物の一人に届けよう。

主な学習活動

- * 登場人物の人物像を考え、「人物関係図」を作成する。
- * 単元を通して「読みの深まりシート」を記入することで、自分の考えの深まりを実感する。
- * 物語の最後に書かれていない太一の気持ちを考え、それを実際にスピーチする。

3 学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
0	家庭学習課題	第1時限に全体の概要をつかむために、あらかじめ意味が分かりにくいと思われる言葉を調べてくる。	★ ワークシート①「しらべ～」
1	学習課題をつかむ。	<p>めあて 物語の全体をつかもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 教科書は開かずに教師の範読を聞く。 * 途中で「次はどうなる？」クイズに答えながら、聞き進める。 * 音読練習をする。（追いつ読み、交代読み、相づち読みなど） <p>* 物語文の読みの観点を確認する（ワークシート②）。</p> <p>* クイズ「その言葉、誰のもの？」 太一、おとう、与吉いさの言葉を短冊にしておき、誰の言葉を当てる。</p>	<p>◎単元を通して、発問に対して「個々で考察」→「ペアで共有」→（「グループで共有」）→「全体で共有」を基本とし、子どもたちの活動量を増やす。</p> <p>★ ワークシート②「たしかめ～」 （登場人物、中心人物、対人物、いつ、物語の舞台、視点、場面）</p> <p>* 3人の人物像（信条、つりのスタイルなど）に迫るための主要な台詞を短冊で掲示する。</p>

2	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * 意見交流「誰の言葉が一番心に残る？」自分の名前マグネットを該当の短冊わきに貼り、どうしてそう感じたのかを交流する。 * 次時の予告と宿題の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> * 次週の人物像に迫る授業の準備として、登場人物の台詞に関心を持たせる。そこから人物像に迫っていくことを伝える。
3	登場人物の関係をとらえる。	<p>めあて 太一を取り巻く人たちの関わりを関係図に表そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「指さしゲーム」で音読宿題の成果を確認する。(教科書本文を見ながら、指定された言葉や表現を探して、パッと指さす。先生⇄児童でやり方を教えた後に、ペアワーク) * 宿題だったワークシート③発問A～Dについて交流し、自分とは違う考え方があることに気づき、自分の考えを広げる。 * 太一と太一の生き方に影響を与えた登場人物との関わりを、ワークシート④人物関係図にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> * 父から学び取ったこと = 父の影響 * 与吉じいさから学び取ったこと = 与吉じいさの影響 * 個々の考えを全体化、共有化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ワークシート③「ふかま～る」 ★ ワークシート④「からま～る」 * 前週で取り上げた登場人物の台詞に着目して、それぞれの「つりのスタイル」と「海と生きる共に生きる信条」に迫りながら、人物関係図を作成する。
4	物語のクライマックスをとらえる。	<p>めあて スバリ！太一の心が一番変化した一文を探そう。(物語のクライマックス場面に迫る)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 太一の気持ちの変化の流れを、ワークシート③発問A～Cに沿ってまとめる。(2-A～2-Cを記入) * 太一の心が一番変化したと思う一文に線を引く。(教科書本文) (自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流) ↓ P210L12「水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。」 * クエ(瀬の主)を打たなかった理由について話し合い、太一の考えがどう変わったかを読み取る。 * 太一の心が変化したあと、なぜ太一は瀬の主にもりを打たなかったかを考える。 ※文章で表現するのではなく、「暗黙知」(簡単に言葉で説明できない知識)を使い、この時の太一の心の様子を色で表現する。 * 自分が塗った色について、そう考えた理由を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ワークシート③「ふかま～る」 * お互いの考えを比較して話し合い、自分の考えの深まりを感じる。 ★ ワークシート⑤「いろぬ～る」 * ♥型の短冊に、太一の心の様子を表す色を塗る。単色だけでなく、複数色を重ねてもよい。 * 色だけでなく、色と言葉の間の記号や絵も使ってよいこととする。
5	登場人物の生き方について考える。	<p>めあて 太一の生き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * クエ(瀬の主)を打たなかったことを生涯誰にも話さなかった理由について話し合う。 (自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流) ①もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエに出会った時に誰かの声が聞こえてきたとしたら、それは誰のどんな声か？」 ②もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエを打たなかった理由を誰かに話したとしたら、それは誰にどんな風に話したと思うか？」 * 太一の書かれていない思いを想像して書き、ビデオレターにすることを伝える。 * 次週の予告と宿題の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ワークシート⑤「いろぬ～る」 * 太一の気持ちを直接問うのではなく、間接的に登場人物の気持ちを考える。 ★ ワークシート⑥「とどけ～る」
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * ワークシート⑥を完成させて、朗読の練習をしてくる。 * ワークシート⑥(反転授業)の説明をする。 * NHK「お伝と伝じろう」より「声だけで表現しよう」を視聴し、よい朗読をするための「体・技・心」とは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ワークシート⑥「とどけ～る」 ★ ワークシート⑦「みてみ～る」
6	学習の成果の発表と交流	<p>めあて 太一の書かれていない気持ちをビデオレターにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 宿題ワークシート⑤を使用し、よい朗読をするためには「体・技・心」が大切なことを確認する。 * 自分が書いた手紙の朗読練習をする。 (全身を使って朗読できるように、教師が見本を示す) 差出人：太一 宛 先：死んだ父、クエ(≒父)、じいさ、母、妻、子ども達 * ビデオレターにするために、一人30秒ずつ録画する。 ↓ * 成果の発表(案) <ul style="list-style-type: none"> * 6年1組と2組で互いに視聴し合う。 * 2月の授業参観で流す。 * 3月の「6年生を送る会」での発表の一部とする。 * 3月の「卒業式」後のホームルーム(保護者も参加)で流す。など。 * ルブリックに記入をし、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ワークシート⑦「みてみ～る」 * 強勢やイントネーションを駆使して感情を表現する。 * 言語による発表だけでなく、ノンバーバルコミュニケーション(話し方、表情、ジェスチャーなど)も意識させる。 ★ ワークシート⑥「とどけ～る」

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
0	家庭学習課題	第1時限に全体の概要をつかむために、あらかじめ意味が分かりにくいと思われる言葉を調べてくる。	* 副教材のドリルにある言葉調べだけでは不十分なので、この宿題ワークシートがあることで、子ども達がより多くの言葉を調べることができたと良かった。
1	学習課題をつかむ。	めあて 物語の全体をつかもう。 * 教科書は開かずに教師の範読を聞く。 * 途中で「次はどうなる？」クイズに答えながら、聞き進める。 * 音読練習をする。(追い読み、交代読み、相づち読みなど) * 物語文の読みの観点を確認する(ワークシート②)。 * クイズ「その言葉、誰のもの？」 太一、おとう、与吉じいさの言葉を短冊にしておき、誰の言葉かを当てる。 * 意見交流「誰の言葉が一番心に残る？」自分の名前マグネットを該当の短冊わきに貼り、どうしてそう感じたのかを交流する。 * 次時の予告と宿題の説明。	* 範読中に3か所で行った「次はどうなる？」クイズは、子ども達に小休止を与える意味で効果的であった。一瞬止まって考えることで、次に範読が再開した時に、また集中できていた。初めから終わりまでいっきに範読をするよりも、子ども達には聞きやすかったと思う。 * クイズ「その言葉、誰のもの？」をしたことで、それぞれの登場人物が発した言葉(先々の課題のためにも、ぜひここで注目をさせたかった)に、かなり意識が向くようになった。その後に行った「誰の言葉が一番心に残る？」交流では、子ども達が「なぜ好きなのか？」の根拠を発表し合うことで、既に登場人物の人物像の解釈が自然と始まっていた。(子ども達にとっては無意識に行われていた)
2	家庭学習課題	* 全文の音読。(ワークシート①の言葉を確認しながら読む) * ワークシート③発問A～Dについて、本文を読み深める前の自分の考え(1-A～1-Dのみ)書いてくる。	* ワークシート③発問A～Dに答えるためには、全文をしっかりと読まないといけない。ワークシートを作成した一つの狙いでもある「自宅で音読課題にしっかりと取り組む」が達成された。
3	登場人物の関係をとらえる。	めあて 太一を取り巻く人たちの関わりを関係図に表そう。 * 「指さしゲーム」で音読宿題の成果を確認する。(教科書本文を見ながら、指定された言葉や表現を探して、パッと指さす。先生⇄児童でやり方を教えた後に、ペアワーク) * 宿題だったワークシート③発問A～Dについて交流し、自分とは違う考え方があることに気づき、自分の考えを広げる。 * 太一と太一の生き方に影響を与えた登場人物との関わりを、ワークシート④人物関係図にまとめる。 * 父から学び取ったこと = 父の影響 * 与吉じいさから学び取ったこと = 与吉じいさの影響 * 個々の考えを全体化、共有化する。	* 「人物関係図」を作り上げていく際に、まずは「自分で」できるだけ記入した後に、「グループ内で」それぞれの考えを交流した。そして最後には、クラス全体で意見を出し合い、みんなでクラスとしての「人物関係図」を完成することができた。 * この時点で、既にかかなり深い読みに到達している子ども達があり、その子どもたちの考えを聞くことで、知らず知らずのうちにクラス全体が物語の主題に迫っていくことができた。自分とは異なる考えを聞き、「なるほど、そういう考え方もあるんだ。そういう風に考えを広めていくんだ。」と、感心している子ども達があり、教師の指導が入らなくても、子ども達同士で読みを深めていくことができた。
4	物語のクライマックスをとらえる。	めあて ズバリ！太一の心が一番変化した一文を探そう。 (物語のクライマックス場面に迫る) * 太一の気持ちの変化の流れを、ワークシート③発問A～Cに沿ってまとめる。(2-A～2-Cを記入) * 太一の心が一番変化したと思う一文に線を引く。(教科書本文) (自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流) ↓ P210L12『水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。』	* それまでの授業の流れで、既にクライマックスの場面がどこか理解できていた。太一の心が一番変化したことが分かる一文を探す時には、意見が割れたので、それぞれがどうしてそう思うか？の根拠を出し合い解釈を深めていくことで、最終的に子ども達自身でその一文にたどり着けた。 * 太一の心境の変化を、文章に書くのではなく、「色」を使って表現する活動が、この単元のひとつの山場となった。日本語に課題のある子ども達でも、異なる色を使ったり、塗り方のパターンを工夫したりと、「自分の考え」を自由に表現できていた。

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 物語文の読みの観点を確認するワークシート②では、この物語においては「対役」が「父」、「与吉じいさ」、「クエ」と意見が割れたので、そこは突き詰めずに「解釈によっては、どの登場人物が対役かが変わってくることもあり得る」ということで終えた。 * 同じくワークシート②で「誰の視点で書かれているか？」を考えることが難しかったようだ。時間に余裕があれば、「視点」とは何か？の説明をもっと丁寧にできると良いと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> * 初めての本文通読後でも、ほとんどの言葉の意味が分かっており、大意を素早くつかむために役立っていた。 * 範読の時に、教科書でなく絵本「海の命」を使用した。すべてのページにカラーの絵があるため、それを見せながら読み聞かせをしたところ、「次はどうなるのかな？」と興味関心を持ちながら聞いていた。 * ほとんどの子ども達がこの物語を知らなかったため、教科書の単元というよりは、普通に読み聞かせをして貰っている感覚で、物語の流れに引き込まれていったように見えた。
<ul style="list-style-type: none"> * 1～2時限目を欠席していた子どもにとっては、難しい課題であったかもしれない。授業に出席をして、物語の概要を理解した上で取り組めると、自分なりの考えが持ちやすいと思われる。 	
<ul style="list-style-type: none"> * 「海の命」の登場人物について「人物関係図」を記入していく前に、まずは子ども達が知っている物語（昔話やマンガなど）を用いて、「人物関係図」にはどんな内容をどのように書いていくのかを、丁寧にステップを踏んで指導すれば良かった。今回はその事前練習をしないで、いきなり「海の命」について考え始めたので、自分なりの考えがどんどんと書ける子どもとそうでない子どもに分かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 自分一人では、なかなか書けない子どもたちは、ペアワークやグループワークで友達に助けて貰いながら、記入をしていた。 * クラス全体で仕上げた「人物関係図」がほぼ完成するという時に、まさに「それがこの物語の主題のひとつ」という内容を発表した子どもがおり、クラスの子ども達はもちろんのこと、指導している私も「この少ない補習校授業の中で、そこまで読み取れるのか」と大変感心をした。
<ul style="list-style-type: none"> * クライマックスは「この辺り」と分かっていたが、肝心の一文を探し出すには、予想以上に時間がかかった。まずは、該当部分の前後の音読を授業冒頭にしてから、その一文に迫っていけるような発問をいくつかしていくと、子ども達が考えやすかったと思った。 	

4		<ul style="list-style-type: none"> * クエ（瀬の主）を打たなかった理由について話し合い、太一の考えがどう変わったかを読み取る。 * 太一の心が変化したあと、なぜ太一は瀬の主にもりを打たなかったのかを考える。 ※文章で表現するのではなく、「暗黙知」（簡単に言葉で説明できない知識）を使い、この時の太一の心の様子を色で表現する。 * 自分が塗った色について、そう考えた理由を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 机間指導をし、子ども達全員から、それぞれの作品について、色使いの根拠や何を表現したかったかなど、口頭での説明を聞くことができた。話すことは書くことよりもハードルが低いと見え、どの子どもも生き生きと自分の作品について話をする事ができた。日本語力に関係なく、全員が主体的に取り組める活動であった。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * 登場人物の台詞を中心に音読。（気持ちを想像しながら読む） * ワークシート⑤♥型の短冊に塗った色の表現について家族に話す。それを家族が文章化し、記入して先生へ報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 多くの保護者の方々からは、保護者欄への記入をして頂けた。子ども達の話したことを文章化する過程を通し、我が子が補習校でどんな学習をしているのかを理解して頂けたと感じた。
5	登場人物の生き方について考える。	<p>めあて 太一の生き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * クエ（瀬の主）を打たなかったことを生涯誰にも話さなかった理由について話し合う。（自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流） ①もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエに出会った時に誰かの声が聞こえてきたとしたら、それは誰のどんな声か？」 ②もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエを打たなかった理由を誰かに話したとしたら、それは誰にどんな風に話したと思うか？」 * 太一の書かれていない思いを想像して書き、ビデオレターにすることを伝える。 * 次週の予告と宿題の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「もしもクイズ」②にある「クエを打たなかった理由」については、前時に行った「心情を色で表す」シートで既にしっかりと考えてあったので、割とスムーズに自分の考えを持つことができていた。どちらかというと「もしもクイズ」①の「誰かの声が聞こえてきたら～」を考える方が、難しかったようだ。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * ワークシート⑥を完成させて、朗読の練習をしてくる。 * ワークシート⑥（反転授業）の説明をする。 * NHK「お伝と伝じろう」より「声だけで表現しよう」を視聴し、よい朗読をするための「体・技・心」とは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 初めて「反転授業」だったが、ほとんどの子ども達が宿題のワークシートに取り組んできた。そのお陰で、授業は、ワークシートの答え合わせ（よい朗読をするための技は既に宿題として学んできたという前提）をサッとただけで、実際の朗読練習に時間をかけることができた。
6	学習の成果の発表と交流	<p>めあて 太一の書かれていない気持ちをビデオレターにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 宿題ワークシート⑤を使用し、よい朗読をするためには「体・技・心」が大切なことを確認する。 * 自分が書いた手紙の朗読練習をする。（全身を使って朗読できるように、教師が見本を示す） 差出人：太一 宛 先：死んだ父、クエ（≒父）、じいさ、母、妻、子ども達 * ビデオレターにするために、一人30秒ずつ録画する。 ↓ * 成果の発表（案） <ul style="list-style-type: none"> * 6年1組と2組で互いに視聴し合う。 * 2月の授業参観で流す。 * 3月の「6年生を送る会」での発表の一部とする。 * 3月の「卒業式」後のホームルーム（保護者も参加）で流す。 など。 * ルブリックに記入をし、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> * ビデオレターを録画できる時間が限られていたため、子ども達は最短の練習時間の後、すぐに録画に進んだ。（今回は、教師の携帯電話で撮影をした） * そんなに少ない練習時間でも、原稿をほとんど見ないでスピーチをしたり、気持ちを込めて話そうとしたりと、与えられた状況の中で課題をやり抜こうとする意欲が感じられた。 * 太一になりきって書いた手紙を、今までのようにクラスの中で発表するのではなく、そこで1クッション置いてビデオレターに録画した。レンズを通して自分とクラスメイトの学習の成果を視聴するという初めての体験をし、教師にとっても子ども達にとっても、とても印象に残る単元となった。 * 主人公の生き方に対する自分の考えをビデオレターで表現する活動は、日本語力の差に関係なく、すべての子ども達が楽しく取り組むことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> * 課題をこなすスピードには個人差があるため、早く塗り終わった子ども達はお互いのワークシートを見せ合って交流をした。自分とはまったく異なる考えを持っている友達の塗り方やその根拠を知り、とても刺激を受けていたようだ。
<ul style="list-style-type: none"> * 中には、保護者記入欄について、「どうして（親が）こんなことをしなくてはいけないの？」とあまり協力的ではないコメントも聞かれたようなので、保護者協力を求める事前説明が不足していたのだと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「（お家の方が）協力してくれた！」「ちゃんと（自分の話すことを聞いて）書いてくれた」と話してくれた子ども達もいた。
<ul style="list-style-type: none"> * 「太一がクエを打たなかったことを生涯誰にも話さなかった理由」を考えることで、「太一の生き方」について考え自分の考えを持たせたかった。しかし、途中で行った「もしもクイズ」①②の印象と前時に「クライマックス場面での太一の気持ちの変化を色で表現した」活動の印象が強かったため、多くの子ども達は「クライマックスの場面で、「なぜ、太一はクエを打つことを止めたのか？」について、一生懸命に考えて、それを宿題の「ビデオレター」ワークシートに書いていた。 子ども達は意識していなかったと思うが、この授業で考えるべき発問の内容が、途中からずれた感があった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「もしもクイズ」で考える手立てが見つからない時には、積極的に「～はどういうことですか？」や「～はどういうことですか？」などと、教師に質問をしていた。あきらめずに一生懸命に課題に取り組み、考えようとしていた。
<ul style="list-style-type: none"> * 廊下で、1～2名ずつビデオレター」の撮影をしている時に、教室内では残り子ども達が自分の順番が回ってくるのを待ちながら、スピーチ練習をしていた。この時に、少々賑やかめになっていた。もし、教室外の静かなところで録画するのであれば、それ以外の子ども達への手立てが必要だと感じた。 * 5時限目の「改善点」にも書いたが、最終的には多くの子ども達が「クエを打たなかった理由」を、宿題だったビデオレターに書いてきた。本来目指していたのは、「クエを打たなかったことを誰にも言わなかった理由」なので、ここに迫っていかれるように、5時限目の授業活動案を見直すか、ワークシート⑥の内容を変更をする必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 今回は授業参観で、全員分のビデオレターを繋げて編集したものを上映した。多くの保護者の方々も参観し、中には涙を流している方もいらした。子ども達のがんばりが良く表れているビデオレターに仕上がった。 * 子ども達は自分のビデオレターは見たくないけれども、友だちのものは見たいという複雑な心境だったようで、とても微笑ましかった。 * 上映が終わった後の感想では、「（ビデオレターを）録画している時にはそんなに緊張しなかったけれども、今日、出来たのを見る時の方が緊張した！」という内容が割と多かった。 * 通常の授業では発言が少なく大人しめの子ども達が、ビデオレターでは表情豊かに堂々と発表できており、子ども達の秘められた可能性を見ることができた。

単元を終えて

今年の小学部6年生は、ダラス補習校でAG5取り組みが開始になった3年前から、毎年AG5授業を受けている。4年、5年、6年と学習を積み上げてきた成果が、今回は顕著に表れたと感じた。どんなに新しい活動でも「やってみよう！」という前向きな姿勢で臨み、ペアワークやグループ学習では、教師からの最低限の指示があれば「じゃあ、やろう。誰からやる？順番をジャンケンで決めよう！」と主体的に取り組むことができていた。また、自分とは違う意見が出た時には「そういうことか。なるほど。へえ、そういう風にも考えられるんだ。」とお互いを認め合える関係も構築されていた。算数は別の教師が担当しているが、そこで行ったプロジェクト型グループワークでも、教師の指示がなくても自分達からどんどんと活動を進めることができおり、教科を問わずに「主体的な学び」が実践できている。昨年の小6のAG5単元（国語）を今年もほぼ同じ授業活動案で指導したが、それらの単元での取り組み姿勢も素晴らしかった。グループワーク（4名ほど）では意図的に、日本語が得意な子ども達と英語の方が得意な子ども達を混ぜたメンバーで行わせているが、自分達が持っている得意な力を活用することで、お互いを上手く補い合っている。



未来がよりよくあるために



関連する教科書単元 国語（光村）6年 意見を聞きあって考えを深め、意見文を書こう

1 目標

単元の目標

- 話し合いで深めた考えをもとに、構成を工夫して、自分の意見を伝える文章を書くことができる。
- 互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、建設的に話し合うことができる。
- 書いた意見文を発表しあい、自己評価することができる。

日本語の目標

- 「なたもだ」（なぜなら、たとえば、もし、だから）を使って、意見を言う。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 意見を聞きあって考えを深め、意見文を書こう。

主な学習活動

- * 自分の未来、社会の未来について考え、話し合う。
- * 友達と質問、意見を言い合い、考えを深める。
- * 「なぜなら」「たとえば」「もし」「だから」を使って、自分の意見をはっきり伝える意見文を書く。
- * 意見文の発表、内容を振り返り評価する。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
	家庭学習課題	● 自分の未来と未来の社会を想像しよう。 ワークシート：100歳までの未来と社会を想像してくる。	
1	学習課題をつかむ。	めあて 自分と社会をどんな未来にしていきたいか考えよう。 ● 意見文のテーマを決定する。 * 100歳までの自分と社会の未来をペアで伝え合う。 * 考えた未来をグループ・クラス全体で共有し、「社会⇄自分」「残す⇄想像する」チャートに書き込む。 ● 意見文構成を学習する。 * 「なたもだ」作文の紹介、「なたもだ」作文を1文書く。 * ペアで伝え合う。 ● 資料「平和のとりでを築く」・漢字 * 教科書資料(p.100-104)の文章を段落分けする。 * 漢字を学習する。	* 様々な未来を友達と共有し、分類することにより、それぞれの考えを広げ、深める。 * ポスター用紙、付箋を使ってそれぞれの意見を整理する。 * 「なぜなら」「たとえば」「もし」「だから」の構成を学習することにより、意見文の普遍的な伝達の方法を知る。
	学習計画を立てる。		
	意見文の構成を知る。		
	2		
	家庭学習課題	● 家庭学習課題の内容を確認 * 意見文練習の残りの課題を完成してくる。 * ビブリオバトルの課題図書を選び、準備してくる。	
	学習内容を深める。	● ビブリオバトル * 課題に関連した本について発表する。	「未来」に関する様々な本を紹介する。(教科書 p.245)
3	意見文の内容を練る。	めあて 自分の考えがはっきり伝わるように、意見文を書こう。 ● 意見文の内容の推敲。 * 意見文の案をグループで発表し、質疑応答を行う。 * 友達からの質問や助言をもとに、意見文を推敲する。 * 推敲した意見文で、グループを変えて再び発表する。 ● テーマの選択 * テーマを絞り込み、文を増やして、より具体的な内容に仕上げる。 * 評価ルブリックを提示する。 ● 資料「平和のとりでを築く」・漢字 * 資料段落をグループで担当し、クイズをつくって発表する。 * 漢字を学習する。	* 友達の意見の内容に対して否定的な発言をせず、建設的に話し合えるよう注意する。 * 評価ルブリックをあらかじめ共有することにより、到達目標を確認する。
	到達目標を確認する。		
	家庭学習課題		
5	意見文を発表する。	めあて 意見文を発表して、内容や構成を振り返ろう。 ● 意見文の発表会 * ペアを変えながら、何回か発表練習を行う。 * ポスターセッション形式でクラス発表会を行う。 * 評価ルブリックで自己評価を行う。 * 意見文の発表や内容でよかったことなどをクラスで話し合う。	* 発表会そのものではなく、発表会のために練習するプロセスを大切にする。相手を変えて何度も練習することにより、発表に慣れる。 * ポスターをもって発表することにより、原稿を読み上げることが防げることができる。
	6		
6	学習を振り返る。		

バ
リ
エ
ー
シ
ョ
ン

事前準備 : 身の回りの家族に「過去」から「現在」までの移り変わりで、どのようなものが変わったのか、変わらなかったのかをインタビューする。
 「つかむ」・「書く」段階 : 「なたもだ」作文の形に慣れるため、毎回即興スピーチを行う。
 「発表する」段階 (参考) : 知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト <http://www.bibliobattle.jp/>



関連する教科書単元 国語（光村）6年 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう

1 目標

単元の目標

- 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめることができる。
- 自分の考えを話したり、書いたりすることで表現できる。

日本語の目標

- * 絵から様々な情報を読み取り、物語を創作して表現する。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 絵から情報を読み取り、スピーチをしたり、物語を書いたりしよう。

主な学習活動

- * 絵を見て、即興で物語を創作する。そのために様々なものの見方を学ぶ。
- * 『鳥獣戯画』の動画を見てグループでアフレコをする。
- * 本文の内容に沿ったクイズオリエンテーリングを行う。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
0	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> * 絵から読み取れることを表現しよう NHK「読み書きのツボ」を視聴（5W1H） 	<ul style="list-style-type: none"> * 反転学習
1	学習課題をつかむ。	<p>めあて ものの見方を学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語即興創作スピーチ <ul style="list-style-type: none"> * アートの絵本から教師が選んだ1枚の絵を見て、5W1Hの情報を考えながら即興でスピーチをしあう。 ● 本文『鳥獣戯画』を読む 内容理解 <ul style="list-style-type: none"> * 教科書本文の文章を段落分けし、内容を理解する。 * 漢字を学習し、音読練習をする。 * 朗読テストの評価規準を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 絵から5W1Hの情報を引き出し、物語を自由に創作する。 * 教師や友達の創作物語を聞き、発想の着眼点や方法を共有する。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵から読み取れることを表現しよう * NHK「読み書きのツボ」を視聴（絵から読み取る） 	反転学習
2	学習内容の理解と発展	<p>めあて 『鳥獣戯画』を自分の見方で解釈しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語即興創作スピーチ <ul style="list-style-type: none"> * アートの絵本の絵を見て、目に見えるもの以外の情報を読み取り、スピーチをしあう。 ● 本文『鳥獣戯画』を読む 内容理解 <ul style="list-style-type: none"> * グループで段落を担当し、内容理解のクイズを作る。 * 朗読テストのための練習をする。 ● 鳥獣戯画の動画アフレコ <ul style="list-style-type: none"> * グループで鳥獣戯画の動画のパートを担当し、各シーンの描写を解釈してシナリオを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 反転学習や物語即興創作スピーチで学んだものの見方を生かして『鳥獣戯画』のアフレコシナリオを考える。 * 朗読の練習がアフレコ活動に生かされることを気づかせる。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵から読み取れることを表現しよう * NHK「読み書きのツボ」を視聴（物語の型を知る） 	反転学習
3	学習内容の統合	<p>めあて 『鳥獣戯画』を自分の見方で解釈しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語即興創作スピーチ <ul style="list-style-type: none"> * アートの絵本の絵を見て、物語の型を意識しながら話を構成し、スピーチをしあう。 ● 本文『鳥獣戯画』を読む 内容理解 <ul style="list-style-type: none"> * クイズオリエンテーリングを行う。 ● 鳥獣戯画の動画アフレコ <ul style="list-style-type: none"> * グループで鳥獣戯画の動画のパートを担当し、各シーンの描写を解釈してシナリオを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> * ペアの相手を替えてスピーチを行うことで、何度も話す練習ができる。 * 本文の理解がアフレコのシナリオ作りに生かされていることを気づかせる。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵から読み取れることを表現しよう。 * アートの絵本から短い物語を書く。 	書く活動
4	学習内容の発表	<p>めあて 『鳥獣戯画』の解釈を表現し、評価しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語即興創作スピーチ <ul style="list-style-type: none"> * アートの絵本の絵を見て、今まで学んだことを意識しながら話を構成し、スピーチをしあう。 ● 朗読テスト ● 鳥獣戯画の動画アフレコ <ul style="list-style-type: none"> * グループで作ったしなりをもとに、アフレコ発表会を行う。 * アフレコ発表会の相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 物語即興の絵はアートの絵本からだけでなく、他の絵や写真も使うことができる。 * 朗読テストを家庭で録画したものを提出することで、保護者の協力のもとで何度も練習することができる。

参
考

- * 読み書きのツボ（5W1H）
http://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005150034_00000&p=general
- * 読み書きのツボ（絵から読み取る）
http://www.nhk.or.jp/kokugo/tsubo/?das_id=D0005150023_00000
- * 読み書きのツボ（物語の型を知る）
http://www.nhk.or.jp/kokugo/tsubo/?das_id=D0005150033_00000

4 授業実践の振り返り

	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点
反復授業 (家庭学習)	* NHK「読み書きのツボ (5 W 1 H)」 視聴してワークシート	<ul style="list-style-type: none"> * 動画の視聴にかかる時間 (15 分) と内容について確認をする時間 (10 分ほど) が節約できたので、その分を「物語即興スピーチ」の「日本語で話す練習」にまわすことができた。 * 事前に NHK 動画を視聴してくることで、授業開始時にはその週に身に付けたい「物語をつくる時のツボ」が理解できていたので、とてもスムーズに「物語即興スピーチ」の練習に進めた。 * 授業中に「今週も同じビデオの宿題がありますか?」「またあのキャラクターが見られるかな?」など、子ども達は反転授業の宿題を負担に感じるどころか、逆に楽しんでいた。 	
	* NHK「読み書きのツボ (絵から読み取る)」 視聴してワークシート	<ul style="list-style-type: none"> * 今回の NHK 動画視聴を通して、絵を見てすぐに読み取れる内容だけでなく、絵をじっくりと見て観察し続けることで、「絵の中には隠されているお話」が見えてくることを実感できたようだ。動画の中で、子ども達が親近感を持てるようなキャラクター達や実際の小学生たちとのやり取りを見ることで、内容理解も簡単にできたようだった。 * 書く課題シートは提出しない (できない) 子ども達もいるが、この動画視聴のワークシートはほぼ全員が持参していたので、その興味関心の深さが伝わってきた。動画は子ども達の心をかなりつかんだようだ。授業冒頭には、その日に学ぶべき内容がしっかりと分かっていた。 	
	* NHK「読み書きのツボ (物語の型を知る)」 視聴してワークシート	<ul style="list-style-type: none"> * どの週も、NHK 動画を見てから取り組んでくるワークシートの提出率が非常に高かったので、いかに子ども達が興味関心をもってこの課題に取り組んでいたのかがうかがえる。 * これで NHK 動画を視聴してワークシートに取り組んでくる宿題は終わりだったが、「もっと見たかった!」と子ども達は残念がっていた。普段は、補習授業校の宿題に負担を感じる子ども達も多いが、これは子ども達が主体的に学習に取り組んでいたため、学習意欲を高めるにも、内容を理解するにも非常に効果が高かったと感じた。 	

子どもたちの反応	保護者の感想
<ul style="list-style-type: none"> * 子ども達から「大変だった。面倒だった。」等の声は聞かれず、「楽しかった。面白かった。」「次も見たい。」と興味関心をもって取り組んでいた。 ★ すごく面白かったです。なぜなら、色々面白いキャラクターや出来事があったので、それを見ながら面白く勉強できてよかったです。 ★ これから何かを書く時は、この五つのことをやろうとしたいです。 ★ 相手に分かりやすく伝える重要さを感じました。 ★ 「なぜ」があったとは知らなかった。 ★ いろいろな文章の書き方をもっと知りたいです。 ★ 五つの中で一番重要な要素は何か、知りたくなった。 ★ 5W1Hのうちのどれかがかくされていると、いろいろな想像ができてしまい、面白かった。 ★ 五個のうち一つでも抜けたら、分からなくなることが分かった。 ★ この五つのものがなかったら、すごい違うことになっちゃうということが分かりました。 ★ 不思議だと思ったのは、(五つのうち)一つでも入れなかったら意味が分からなくなることです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「反転授業」のためのNHK「読み書きのツボ」の再生は大変でしたか？ 母 大変ではありませんでした。時間的にも、長すぎず、短すぎずでちょうどよかったです。 母 我が家のIPADには先生から来るメールが見られるので、簡単に再生でき、問題ありませんでした。 母 簡単でした。 ● NHK「読み書きのツボ」は一緒にご覧になりましたか？ 母 一緒に見ました。小1の妹も一緒に二回ほど視聴しました。 母 最初は娘が一人で見て、私がワークシートを見直しする際にもう一度一緒に見ました。 母 子どもと一緒に見ました。
<ul style="list-style-type: none"> ★ 絵をよく見れば、色々な物語が作れることに驚きました。 ★ つぼや子ども達などがたくさん出てくるので、本当に楽しい教え方だと思いました。 ★ 分かりやすいので良かったです。 ★ これからもっと絵を観察したいです。 ★ ひとつの絵をよく観察すると、思ってもみなかったものや見ていなかったものが分かるので面白かったです。 ★ 大勢で一枚の絵を見て見ると、それぞれ違う意見があったので興味深かったです。 ★ 作者の思い描くものと、私達の想像することに違いがあるのは面白いと思った。 ★ アパートの絵を見て話し合った時、いろいろな考えがあって面白いと思った。 ★ たった一枚の絵から、たくさんわかることが不思議だと思いました。 ★ (絵を)よく見たら、(読み取れることが)もっといっぱいあると分かった。 ★ 観察すれば、いろいろなものが見えるということが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 見ている時のお子さんの様子はどうでしたか？ 母 例題を見て一緒に答えを考えたり、正解を見るほどなるほどと感心していました。5W1Hが抜けていると、違う意味になったり、相手にきちんと伝わらないねと話していました。 母 とても面白そうに見ていました。私も、見ていて「なるほど！」と思うところが多々ありました。
<ul style="list-style-type: none"> ★ ひとつでも(場面を)抜きとると、物語がくずれることを考えたことがなかった。 ★ 一場面でも抜けると変になるから、“物語の地図”を思い浮かべることが大事だと分かりました。 ★ どこを言っていなかったのかを見つけるのが楽しかった。 ★ ひとつの場面がないと、こんなに違和感があるんだと思いました。 ★ 一場面でも抜けていると、物語がくわしく伝わらないことが分かりました。 ★ 一つでも場面を抜かして語ると疑問を持つことが良く分かった。次からは、そこを意識して物語をまとめたいと思った。 ★ 少し抜けていても、物語が変わってしまうということが分かりました。 ★ 場面が一つでも抜けると、お話が全然ちがうお話になってしまうことに気付いて良かった。 ★ 少しだけ抜けているだけで変だと思うことに気付いた。 	

	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点
話し力 (反転授業の「授業」の部分)	物語即興創作スピーチ① 5W1Hを意識して、2枚の絵について即興で物語を作りペアで発表。	<ul style="list-style-type: none"> 特に1時間目の授業では、1枚目の絵を見た時に目を輝かせていた。隣同士で「何が見えるか？」の意見交換をしたが、かなり活発的に出来ていた。 	
	物語即興創作スピーチ② 見えるもの以外の情報を読み取れることを意識して、2枚の絵について即興で物語を作りペアで発表。	<ul style="list-style-type: none"> 前時よりもかなり意識して、課題の絵を観察しているのが分かった。そうすると大人が思いつかないような独創的な物語ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「見えるもの」と「見えるもの以外の情報」の区別が難しかったようだ。教師がもっと具体例を示せば良かった。
	物語即興創作スピーチ③ 物語には必ず出来事(事件など)があることを意識して、2枚の絵について即興で物語を作りペアで発表。	<ul style="list-style-type: none"> 絵から想像できる「出来事や事件」を考へることにとっても面白そうに取り組んでいた。男児児童たちは「爆発した」など、スケールの大きな内容を想像することが好きなので盛り上がっていた。男女間で視点の違う物語交流ができていたのも良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1枚目の絵に描かれていた人物や物が多過ぎたため、どこに焦点を当てたら良いのか迷っており、物語創作がしにくそうだった。今後は、子ども達が物語創作をしやすい絵を意図的に選ぶようにしたい。
書く力 (反転授業後の家庭学習)	絵から想像して短い物語を書く① (5W1H)	<ul style="list-style-type: none"> 自由に想像力を働かせて書くことが好きな子ども達は、かなり自分の世界に没頭をして書いていたようだ。子ども達からも「好きに書いていい」という課題はとめて楽しかった、との感想が聞かれた。 授業中は控えめな子どもでも、出来上がった物語を読むと、豊富な語彙を駆使し表現豊かに書けていたので、日頃から頭の中で様々なことを考えているのだと、発見があった。 NHK 動画「読み書きのツボ」について大切なことを確認したあとに行うこの創作スピーチは、授業開始時の良いウォーミングアップ活動となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 創造活動が好きで与えられたワークシートいっぱいを書く児童たちもいたが、逆に3行ほどでさっと終わらせて、内容を熟考したと思えない仕上がりのものであった。これはワークシートの構成に課題もあったと思うので、次回は「量を指定する(～行以上、～字以上など)」「行だけでなくマス目も入れる」「どこに工夫をしたかを記載する欄を追加する」など、ワークシートを改善したい。子ども達が思っていたような成果を挙げられない時は、教師からの指示の仕方があいまいだったり、指示がはっきりしていなかったりすることが考えられるので、この件は指導者としての自分の課題として残った。
	絵から想像して短い物語を書く② (5W1H、見えない物を想像する)		
	絵から想像して短い物語を書く③ (どんな物語にも問題=Conflictがある)		

子どもたちの反応	保護者の感想
<ul style="list-style-type: none"> * プロジェクターで絵を示すたびに、目を輝かせて見入っていた。隣同士で「何が見えるか?」「見えないけれども何が隠されていると思うか?」「(この絵から)どんな出来事や事件が起こりうると思うか?」などについて考えさせると、かなり活発にお互いの考えを交流していた。 * 文章について考えたり、正解不正解がある発問について考えたりするよりも、こうした視覚的な題材について自由に考えることには、かなり子ども達は積極的に取り組むことが分かった。「どれもすべてよい答えだよ!」という雰囲気が教室内にあふれると、更に意見交換が活発化する。 * 日本語力に課題があっても人の前で発表することが好きで得意な現地型の子ども達が、クラス内発表で積極的に挙手をして話していた姿がとても印象的だった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 物語を書いていた時に、気持ちを込めて書いたので、良く出来たと思いました。 ★ 絵を見て物語を書くのが、とても楽しかった。 ★ 物語を書く時に、絵にないものが想像できた。 ★ 絵から物語を探し出すのが面白かった。 * 日本語で話したり書いたりすることが困難なため、補習授業校の宿題を家庭教師に手伝って貰っている児童がいる。普段は「書く課題」では苦勞をするが、この物語創作の各課題では、特に3週目の絵について想像力が果てしなく膨らみ、無我夢中でファンタジー的な物語を書いていたそう。出来上がった内容も素晴らしかったので、学級通信に記載し、クラス全員に読んで貰った。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「一枚の絵を見て物語を書く」ワークシート3枚の宿題は、心の負担になっているようですか? 母 そんなことはありませんでした。子供なりに楽しんで取り組めていました。 母 物語は子どもが自分で書きました。今回は本人が書きだす前に家族で絵を見てそれぞれ思うことを話し合いました。思い思いの話が膨らみ、楽しい時間でもありました。それを本人が踏まえたかどうかは定かではありませんが、よし!と書き出し、書いている間も楽しそうなのは印象的でした。上手ではないのですが創作活動全般に好きなようです。今回の宿題もとても楽しかったようです。このような素晴らしい機会を与えてくださり、親としても心から感謝しております。 母 子どもの心の負担にはなっていませんでした。自分が思いつくままに自由に書いていたとは思いますが。ただ、私が見直す際に日本語ではわからないことが多く、これは何を言いたいのかと聞くと、英語ではこういうからと、英語でその言葉を教えてくれましたが、英語を直訳して日本語で文章に入れていたため、添削するのに苦勞しました。 母 元々、考えたり、想像したりして、何かを作ったり、書いたりすることが好きなので、今回の「一枚の絵を見て物語を書く」のワークシートは、子どもには負担ではないようでした。通常の宿題は、キッチンのテーブルでしますが、このワークシートは、うるさいと集中できないと言って、一人で部屋にこもり、自分なりに感じ想像したことをひたすら書いていました。書き終わった物語を読んで、私に直して欲しいと言ってきましたが、それでは本人らしさが無くなってしまおうと思い、そのままの状態提出させて頂きました。

	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点
「『鳥獣戯画』を読む」 本文読解	「『鳥獣戯画』を読む」 <ul style="list-style-type: none"> * 全文通読 * 段落分け * 大まかな内容の理解 	<ul style="list-style-type: none"> * 単元テストでかなり高得点が取れていた ので感心した。 	
	★クイズオリエンテーリングの 準備 <ul style="list-style-type: none"> * 児童2～3名のグループが 各段落の担当者となる。 * グループごとに○×クイズ を1問、QAクイズを2問 作り、画用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> * 日本語力に応じて、日本語が得意な子 ども達とそうでない子ども達を意図的に交 ぜてグループに分けたことで、グルー プ内での助け合いが実現できたと思う。 * 自分の担当の段落だけ一生懸命に読みク イズを作れば良かったので、日本語力に 課題のある子ども達でも気持ち的なハー ドルは低かったようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> * 授業時間不足で、問題の作り方だけ 説明し、問題例を提示しなかった。 そのため、各段落の本文理解が深ま らないような問題もあった。それで も子ども達は「何とか難しい問題を 作ろう」と一所懸命取り組んでいた ようだ。次回は、時間をしっかり確 保し、問題例もきちんと示したい。
	★クイズオリエンテーリングの 本番	<ul style="list-style-type: none"> * かなり一生懸命にそれぞれの段落の質 問に答えようとしていたため、自主的に 本文の内容理解が深まっていた。通常の 授業で段落ごとに内容の読み取りをし ていくよりも、短時間で深い理解まで たどり着けたと思う。 * 教科書本文を見て正解を出した時と見 ないで正解を出した時とで、得点を 変えたことが子どもたちのやる気を 奮い立たせていた。こうしたほんの 少しの工夫でも子ども達の学習意 欲はグンと増すことが体感できた 授業だった。 * 通常の本文読解の授業だけでなく、 たまにこうしたクイズ形式の読解を 行うと、非常に効果的なことが分 かった。今後も単元を選んで実施 していきたい。 	
場面1～6(4～5名)の6グルー プに分かれ、「創作アフレコ」活 動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> * 担当になった場面の動画を 視聴する。 * キャラクター設定 * ストーリー設定 * セリフづくり ↓ ✳️場面ごとの台本が完成する。	<ul style="list-style-type: none"> * グループ内で相談をしながら、キャラ クター設定やストーリー展開を決め、 それに合ったセリフを考えることを 楽しそうに行っていた。自分の得意 分野(日本語が得意、想像すること が得意など)で力を発揮すること により、「協働活動」の楽しさを 味わいながら、台本づくりが 進められていた。 * 子ども達だけでは台本づくりに 煮詰まっている場面があったが、 ボランティアで入って下さった 保護者の方々がファシリテーター として関わって下さったことで 乗り越えられていた。2～3週間 に渡りお手伝い頂いた保護者の方 々からは、「子ども達でもこんなに 協働活動ができるのですね。す ごいですね。子どもの頃から こうした練習をしておくこと、 将来会社勤めをした時にとても 役に立ちます。」など、今学習 していることの意義を再確認 できるフィードバックを頂けた。 また、保護者の方々にも、今 回の授業が目指しているものを よりよくご理解頂けたので、 学級と家庭の双方にとってと ても有意義な授業となった。 * 日本語力に差のある子ども達 で同じグループが構成されてい たため、日本語に課題のある子 どもたちの語彙力向上に繋が ったと思う。アフレコには、 擬音語や日常会話で使われる 表現なども多く、普段日本語 を使う機会の少ない子どもに とっては、新たな表現を学ぶ 良い機会となったのではない かと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 毎時間、欠席者(現地校行事、 習い事、スポーツなどの理由)が いるグループも多かったの で、台本が仕上がったのが 発表会の一週間前だった。 そのため、仕上がったセリフ を見直し、推敲する時間が なかった。 * シーンごとの動画の長さ と出てくるキャラクターの 数に違いがあったので、 セリフを考えるのに苦 労していたグループもあ った。 	
鳥獣戯画創作アフレコ			

子どもたちの反応	保護者の感想
<ul style="list-style-type: none"> ★面白い問題を作れて良かったです。 ★みんなで考えることができて良かった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ クイズオリエンテーションが楽しかった。 * 自分の力だけでは、問題を理解し答えることが非常に難しい子ども達だったので、その場合には日本語が得意で9段落すべての問題が早く終わった子ども達をサポートで付けた。そうしたところ、隣に立ち、本文のどの辺りに正解が書かれているかなどを示してあげたりして、得意な子どもが苦手な子どもを助ける姿が見られた。 * 授業後に、「またやりたい!」という声が多かった。先生から何かを教えて貰うのではなく、自分達で答えを探しに行く、という活動が子ども達に学習意欲を湧き立たせ、主体的に本文を理解しようという姿勢に繋がっていた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ みんなで台本を作ったところが面白かったです。 ★ 面白いアイデアを出せて良かったと思います。 ★ 最初は緊張したけれど、自分の話す番になったとき、よく出来たので楽しかったです。 ★ グループと一緒に話し合いが面白かった。 ★ グループ活動が出来たことが良かったです。 ★ グループの中では、自分のアイデアをいつもしっかり言っていた。 ★ みんなで一つ一つのセリフを考えて、うまくつなげていくのが難しかった。 ★ もうちょっと自分の意見を言えば良かった。 ★ 人の意見が聞けて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 創作アフレコについて家で何か話をしましたか？ 母 自由な発想で意見を述べたり、グループの友だちからの様々な意見が聞くことができ面白いと話していました。 みんなで同じ絵を見ても、それぞれが全く違う想像をしたり、違う台詞が浮かんでくるので、多面的に物事を考えることを学んだようです。お互いの意見を否定せず、みんなで上手に話し合って進めることができたようです。 また是非やりたい、次回はシーンの続きをみんなで創りたいと言っていました。 母 「鳥獣戯画」の動画は何度か一人で見たようです。読みの練習を前の日に数回やりました。 母 アフレコを作る時にお休みしてしまい、自分の意見が言えなかった事が残念だったと言っていました。

	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点
鳥獣戯画創作アフレコ	<p>参観日に創作アフレコ発表会を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 自分以外のグループの発表を見ることで、「次はこうしたい。ああしたい。」と様々な振り返りが出ていた。複数グループで「ナレーターを入れれば良かった。」とあったので、もしもう一度同じ授業を実施することができれば、今回以上に質の高い台本が仕上がりに、アフレコ発表でも更に気持ちを込めて発表ができると期待される。 * 「こうすれば更に良かった。」という振り返りが、教師から指摘されるのではなく、子ども達自身から自発的に生まれたのが大きな成果であった。こうした気持ちが次回の学習への意欲へと繋がっていくと思われる。 	
朗読テスト	<ul style="list-style-type: none"> * 朗読テストは、必修として第1段落、選択必修として各自が好きな段落を一つ選ぶ。 * 朗読は、ルブリックを用いて評価し、成績に加えることを通知する。今回は朗読を聞いた保護者に評価をお願いする。 * 自宅で録画した朗読動画を、Google Driveへアップロードするか、USBへ入れて提出して貰う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保護者による評価と動画を見て教師が出した評価がほぼ一致していることが大方。中には保護者の評価の方が厳しいケースもあったくらいだ。保護者の方々は我が子の力をよく把握しようと、積極的に関わって下さったことを感じた。 <p style="text-align: center;">参考</p> <p>「朗読テストシート」の保護者コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> * 単語のイントネーションに苦労していましたが、よく練習していました。 * 楽しい宿題でした。 * 難しい朗読でしたが、声の大きさやスピード、抑揚のつけ方など、感情を込めてとても上手く読めたと思います。 * 最初は言わないとやってくれませんでした。録画したりして、自分が読んだところを聞き直したり、アドバイスを受けて練習するうちに、「もう一回やる。」と自ら言ってくれたのは大きな成長だったと思います。親子で楽しく取り組みました。 * 何度も何度も練習して頑張りました。 * 何度も練習すると良くなっているように思う。 * 発音しにくい言葉が入っていた文も、何度も何度も練習して上手になりました。おすもうの場面の臨場感と段落ちの説明を落ち着いてしているところを対比させて読もうとしていました。 * かなりがんばって練習していました。 * 毎日練習して、よくがんばりました。 * 限られた時間の中で、よく読めました。 * 我が子なりに頑張ったかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> * 全家庭に Google Drive の共有フォルダのリンクを送信し、希望者はそこにアップロードをして貰ったが、この方法だとリンクを共有した誰でもすべての動画を見ることができるシステムだった。実際には、それで他の子どもの動画を見た方はいないと思われるが、他に、もう少しセキュリティ度の高い動画のアップロード法があれば探してみたい。

子どもたちの反応

- ★ しっかりと積極的に取り組みました。セリフのタイミングをもう少し合わせたかったです。
- ★ 初めてアフレコをやってみて、すごく楽しかったです。グループのみんなもがんばってくれたので、上手に出来たと思いました。
- ★ ナレーターを入れることを考えなかったのが、わかりました。
- ★ 台本を見ないでやるのは難しかったです。
- ★ 動画を見ながら登場人物の話し方や表情を表せて良かったと思う。
- ★ グループでした練習の成果が出せた！
- ★ 完全に登場人物になれた。
- ★ 台本を見ないで話せた。

- ★ 私は「鳥獣戯画」を朗読していた時に違うキャラクターになれたので、すごくよく出来たと思います。
- ★ 読むとき、もっと感情を入れれば良かった。
- ★ 感情があまり込められなかったから、次はもっと込めたい。

保護者の感想

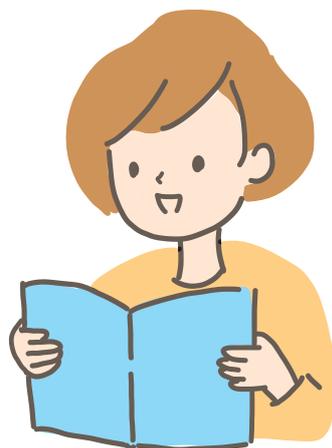
- 母 楽しい授業参観ありがとうございました。先々週よりも子供たちのやる気、力がアップしていて、さすが6年生!だと感じました。
- 母 先日の参観日は楽しませて頂きました。一人一人の個性が出ていて、その個性を大切に大きく育てて欲しいと思いました。日本の社会、とかく社会人になると個性を押し殺さねばならない環境が多い中、伸び伸びと個性を大切に輝いてほしいものです。ポジティブな感想のみを述べる、というのは個性を伸ばしていくうえでも素晴らしい事だと思います。教室に座らせていただき、授業を聞きながら子供の頃、勉強が好きだった自分を思い出しておりました。新しいことを学ぶエキサイトメントを久しく忘れておりました。授業に思わず聞き入り、新しいことを子供と一緒に学ばせて頂き、久しく刺激していなかった部分の脳の刺激になりました。
- 母 アフレコ発表会の動画を共有していただきありがとうございました。子どもと二人で鑑賞しました。本人は他のグループを見て、もっと頑張ればよかったと少し後悔していましたが、それも良い経験だと感じました。楽しく学ぶ授業、毎回ながら感動しました。ありがとうございました。

- 母 家庭での練習中、とても緊張して、集中力がすごかったです。
- 母 照れもあり最初は早口で棒読みでしたが、私が大袈裟に朗読して見せたりして、何度かやり直しをしました。なかなかこのように親子で取り組む機会もなかったもので、楽しかったです。いつも「宿題やりなさい!」とばかり言っている母親が同じ課題に取り組んでいる姿を見て面白かったようで大笑いしながら私の朗読の姿を動画に撮っていました。貴重な機会をありがとうございます。
- 母 最初に声だけから動画に変更するという事を聞いて、とても恥ずかしそうにしていました。また、今までは机の上にある携帯電話に向かって音読していたので声も大きく聞こえたのですが、動画になるともっと大きな声で読まなければならない、声の大きさが違うということで3回ぐらいやり直しが必要でした。でも、何度か撮って、見直しているうちに、自分からもう一回やり直すと言い出したのにはびっくりしました。
- 母 いつも褒めて頂いて、私も子どもも日本語学習のモチベーションが上がります。本当にありがとうございます。朗読テストの動画も、褒めて頂きましてありがとうございます。一生懸命練習していたので、その成果が出たのだと思います。

コメント

● この単元全般を通して、何かコメントがありますか？

- 母** 大変素晴らしかったです。
鳥獣戯画という題材が非常に素晴らしいものであったことはもちろんですが、グループワークを通じて、自分の考えをまとめたり、伝えたり、擦り合わせをしたりする作業は、子供たちにとって将来必要な「コミュニケーション能力」が育まれると思いました。難しいプロジェクトにもかかわらず、生き生きと取り組んでいる子供たちの姿がとても印象的でした。授業が進むごとに、親である私たちもこのプロジェクトにすっかり魅せられてしまいました。限られた時間数の中でここまでの授業を行ってくださった先生方に感謝申し上げます。グローバルな時代に相応しい人材に育てて行くために、自分自身が努力をしなくてはと考えた次第です。アメリカに来てこのような授業を受けることが出来、子供はとても恵まれたと思います。
- 父** * PC を授業に使うのは米国の学校がたいへん進んでいる。日本の学校ももっと取り入れるべき。
* 日本の子供たちがグループディスカッションで意見を述べながら創作することは、子供たちの発想力、プレゼンテーション力を伸ばすのに大変有効。日本人は苦手だが、会社ではこういう力が求められる。
* 創造力のない児童には負担になる面もあるのかもしれないが、そのような子は見当たらず。自由に積極的に発言しており大変すばらしかったと思う。
- 母** いつもは、教科書も一緒に見ることなく、車での移動中に音読をさせていましたが、今回は朗読テストと言われ、横に座って、わからない言葉などは、意味を調べ確かめながら、親子でちゃんと練習できたのはよかったです。音読の際、いつも気になるのが、わからない漢字を訓読みで読み、頓珍漢な言葉のまま音読することが多いことですが、何度も練習する前に、授業が次の単元に移ってしまい、十分な練習が出来ないことが多かったです。今回の単元でびっくりしたことは、『鳥獣戯画』を読む単元テストで、両面とも100点を取ってきたことです。姉二人も表は100点を取れても、裏（言語や漢字）は散々なことが多く、今回はびっくりしました。本人に聞くと、「なんだかスラスラ解けた！」と、とても嬉しそうにしていました。気のせいかもしれませんが、今回の取り組みが功を奏したのかなと思っています。
- 母** ただ教科書通りだけでなく、その先にある物を見出す力を付ける（子供の想像力を引き出し、高め、豊かにする）貴重な学習だったと思います。特に「鳥獣戯画」の創作アフレコや、朗読テストは、忘れられない思い出として、子供達の心の中に刻まれたと思います。とてもいい授業でした。



母 反転授業

始める前は、授業の予習を家庭でしなければいけないのか！とかなりの重圧を感じましたが、いただいた教材が、動画であったこと、教科書の内容を予習していくものではなかったこともあり、親子で楽しく動画視聴をすることができました。普段の宿題だと、こちらも学校で習ったことだし、“やっておきなさい”で終わってしまいますが、動画を見て質問に答えるという形式は、親も興味を持って取り組みました。映像から情報を得ることに慣れている現代っ子にはとてもとっつきやすい形式の反転だったと思います。また、授業では、一対大勢のため、自分が聞いていなくてもいいだろう、と思ってしまうことも、動画を見て質問に答える形式だと、自分で情報を読み取り、書き出すことが要求されるためか、積極的に動画を何度も見て、自分で答えを引き出そうとする意欲が見られました。選んでいただいた教材自体も、英語を母国語とするわが子でもわかりやすく、ポイントがしっかり絞られたもので良かったと思います。我が子にちょうど良い教材だと感じたので、駐在でいらしているお子さんには少し簡単だったかもしれません。

朗読テスト

とても緊張して何度も撮り直しをしました。本人は恥ずかしさや映像に残ってしまうのが嫌だという気持ちがあったようです。

普段、国語の教科書をすべて音読するのは、我が子にはハードルがとても高く、多くの宿題のなかで、後回しになってしまう課題です。しかし、必ず、録画して提出しなくてはいけない、となると、子供も自覚をもって、何度も練習していましたし、普段の音読では気持ちを込めて読む、場面を想像して読む、などができず、義務感からの音読になっていたのが、今回は情景が思い浮かぶのではないかと、思うくらい、工夫を凝らし、読むだけではなく、聞き手に伝えるための読み方を自分なりに考えることができたのではないかと思います。

アフレコ

グループ活動にいただいたおかげで、日本語力に差がある補習校のクラスでも、どの子も自分の役割をもって取り組むことができたと思います。昔のまき絵に、現代っ子らしいアフレコが溢れていたのが印象的でした。大人の目線では、既成概念にとらわれ、この絵は、こう解釈しなくてはいけない、、、と思いがちですが、子供たちの考えたアフレコはユーモアや想像力にあふれたものだったと思います。発表の前の回からボランティアに入り、子供たちの考えた台本にアドバイスをしましたが、どうしても、私の固定観念の入った意見を言ってしまい、子供たちもそれに伴い、台本を直したりしたので、むしろ、アドバイスをしないほうがよかったのかな、と今は思います。

子供たちも初めての経験で、どうやっていいかわからない部分があったと思います。授業参観の本番で、他のグループの発表を聞き、たくさんの気づきがあったようなので、再度、同じグループで、台本に手を入れてもらい、もう一度同じルーティンを繰り返したら、もっと想像力にあふれた作品ができるのではないかと思います。

この活動は、グループ活動ということもあり、日本語ができる子が苦手な子の手助けをし、苦手な子もグループの一員として、一生懸命練習していたのが印象的でした。国語学習としてだけでなく、できる子が苦手な子を、苦手な子が得意な子を認め合い、お互いに尊重しあい、助け合うこと、尊敬すること、など、とても道徳的な要素の強い活動だったという印象を受けました。これは、まさに補習校ならではの、学びの場だなと思いました。

絵から想像してお話を作る

普段から作文は大の苦手です。題材を与えられても、そこからイメージをふくらまして、日本語で表現することが難しいと感じていると思います。しかし、視覚的要素の強い絵からお話を展開していくのは、文字で題材を与えられるよりむしろいぶん文章が書きやすかったようです。与えられた絵によって、想像のしやすい、しにくいはありましたが、自分でストーリーを考え、反転授業で見た動画の大切な要素を盛り込みながら、四苦八苦しながらも嫌がらず、意外と楽しんで文章を書いていました。文法的な部分は親がフォローをしてあげたところもありますが、一人で起承転結を結べたのは素晴らしいと思いました。

長男の時の教科書一辺倒の授業と違い、親の介入度は本当に多かったです。我が家は末っ子で、一対一でこの活動に向き合えたので、本人にとっては、本当に実りのある授業になったと思います。今すぐに国語力が上がった！とは言えませんが、着実に次の段階の日本語学習に向けての基礎固めをすることができたと思います。ただ、漢字を何度も書かせる、題材だけ与えて作文を書かせる、など、やらされる感じの授業では身につかない、日本語の基礎、応用力を伸ばすことができる授業だったと思います。他に兄弟のいる方や、現地校やスポーツとの両立をしなくてはならない家庭では、時間の確保が難しかったのではないかと思います。

根拠を明確にして意見を書こう



1 目標

単元の目標

- * 社会生活の中から「より良い地球の未来」に関する課題を決めて、情報を集め、自分の意見を持つ。
- * 自分の意見とその根拠を明確にして、文章構成を工夫して意見文を書く。

日本語の目標

- * 意見文にふさわしい語句を選び、事実と意見を明確に区別して、「～ています。」「～ているそうです。」「～でしょう。」「～かもしれません。」などの文末の語句を工夫して使用する。

2 学習課題と活動

学習課題

- * 明確で説得力のある意見文を書く。

主な学習活動

- * 情報を集めて課題を決める。(宿題)
- * 自分の立場を明確にする。(グループディスカッション)
- * 自分の意見とそれを支持する根拠を明らかにするとともに、反論を想定する。(パネルディスカッション)
- * 双括型での構成を考えて、意見文の下書きをする。
- * 推敲して清書する。(宿題)
- * 意見を発表し助言し合う。



3

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
0	家庭学習課題	「より良い地球の未来」特に環境問題等に関する課題を決めて情報を集める。	
1	課題を決め立場を明確にする。	<p>社会生活の中から「地球の未来」に関する課題を見つけ、自分の立場を明確にする。</p> <p>めあて</p> <p>各自が持ち寄った記事や情報をクラスで紹介する。</p> <p>↓</p> <p>カテゴリーごとにグループに分かれて意見を交換する。</p> <p>↓</p> <p>グループで話し合うことにより、自分の意見の元となる根拠を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 環境問題に興味を持ち、それについて自分の意見を持つ。 * 自分の意見とその根拠を話し合うことにより、立場をより明確にしていく。
	家庭学習課題	パネルディスカッションの準備－根拠（取り出した情報）の解釈や反論の想定	
2	根拠を明らかにし、より説得力のある意見を確立する。	<p>めあて 意見を支える根拠を考え、反論を想定して自分の意見をより明確にする。</p> <p>パネルディスカッションの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自分の意見を支える説得力のある根拠を考える。（理由） * 自分の意見や根拠に問題点がないか考える。（反論） <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> * 役割に応じて討論を進める。 <p>パネルディスカッションを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> * 内容を振り返り、考えの広がりや深まりを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> * より説得力のある意見と根拠を考える。 * 反論を想定して対策を考える。 * 他の人の意見や質問をもとに自分の考えを深める。
	家庭学習課題	構成メモの下書き	
3	構成を考え意見文にまとめる。	<p>めあて 構成メモを作り文章の構成を考え意見文の下書きの準備をする。</p> <p>① 意見文の「構成の型」の例を確認する。</p> <p>② 反論の想定の方をを考える。</p> <p>③ 双括型の構成メモを作成する。</p> <p>④ 明確な意見文を書く留意点を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 双括型の構成を理解して、意見文の構成メモを作成する。
	家庭学習課題	下書きの完成 * 清書は教師が下書きを添削後、宿題とする。	<ul style="list-style-type: none"> * 構成メモをもとに、根拠が明確で説得力のある文を書く。
4	意見文を発表する。	<p>めあて 意見文を読みあって助言し合う。</p> <p>4人程度のグループを作り、一人一人が意見文を発表し、良い点や改善点を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 意見、根拠、反論の検討により、意見を深める。

4 授業実践の振り返り

時限	内容	活動	有効であった点
0	家庭学習課題	「より良い地球の未来」特に環境問題等に関する課題を決めて情報を集める。	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書の論説文「モアイは語る」を学習した際に、「地球の未来」について考えていたので、今回の意見文の単元では、それに関連付けて自分なりのテーマを選ぶことができた。
1	課題を決め立場を明確にする。	<p>めあて 社会生活の中から「地球の未来」に関する課題を見つけ、自分の立場を明確にする。</p> <p>各自が持ち寄った記事や情報をクラスで紹介する。 ↓ カテゴリーごとにグループに分かれて意見を交換する。 ↓ グループで話し合うことにより、自分の意見の元となる根拠を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 1時間の予定で実施したが、予想した以上に生徒たちの意見交流（同じような意見を持っている生徒たちの集まりによるグループトーク）が活発に行われ、時間が足りないくらいだった。 * 日本語力に関係なく、どの生徒も自分の意見を積極的に発言していた。またクラスメイトの意見を聞いた後に、様々な質問もしていた。 * 生徒たちが「言いたいこと、伝えたいことがある」という状況設定することが、活発なグループトークへ繋がると実感した。
	家庭学習課題	パネルディスカッションの準備－根拠（取り出した情報）の解釈や反論の想定	
2	根拠を明らかにし、より説得力のある意見を確立する。	<p>めあて 意見を支える根拠を考え、反論を想定して自分の意見をより明確にする。</p> <p>パネルディスカッションの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自分の意見を支える説得力のある根拠を考える。（理由） * 自分の意見や根拠に問題点がないか考える。（反論） <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> * 役割に応じて討論を進める。 <p>パネルディスカッションを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> * 内容を振り返り、考えの広がりや深まりを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> * パネルディスカッションやディベートは、現地校で既に何回も経験しているため、現地校通学歴が長い生徒たちにとっては、手順がすぐに理解できていた。 * パネルディスカッションをし、様々な意見を聞くことで自分の意見がより深まっていた。また「自分の意見に対する想定される反論とそれに対する考え」を持つことが、より簡単にできていた。 * 今回、意見文に「想定される反論とそれに対する考え」を入れることを目標とした。
	家庭学習課題	構成メモの下書き	
3	構成を考え意見文にまとめる。	<p>めあて 構成メモを作り文章の構成を考え意見文の下書きの準備をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意見文の「構成の型」の例を確認する。 ② 反論の想定の方をを考える。 ③ 双括型の構成メモを作成する。 ④ 明確な意見文を書く留意点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 構成メモのワークシートに「文章表現の例」が入っていることで、日本語力の差異に関係なく、どの生徒たちにとっても書きやすい手立てとなっていた。 * 宿題で作成してきていた「構成メモの下書き」があったことで、授業中に取り組んだ正式な「構成メモ」がスラスラと書けている生徒たちが多かった。 * 意見文の「構成の型」が視覚的にも分かりやすいように、プロジェクター資料を用意したことが効果的であった。教科書の本文よりも、生徒たちには分かりやすかった。
	家庭学習課題	下書きの完成 * 清書は教師が下書きを添削後、宿題とする。	
4	意見文を発表する。	<p>めあて 意見文を読みあって助言し合う。</p> <p>クラスを半分に分け、前半グループと後半グループに分けて、ペアになり意見文を発表し、良い点や改善点を話し合う。これを時間いっぱい順次ペアを変えていき、発表していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 前に出て、一人ずつ発表する形式ではなく、一対一で発表し合う形式で行った。相手の意見を聞いた後には、質問や感想を述べることができる時間も設け、その場で良かった点や改善点の意見交換ができた。発表する側も聴く側も、大変真剣に発表会に取り組めた。

改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
<ul style="list-style-type: none"> * 調べ学習の内容は各自ノートに記載させたので、調べてきた量に差があった。調べ学習用のワークシートを用意し、「調べる時の観点」をある程度指定した方が、量的にも質的にも生徒たちにとって調べやすかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 論説文「モアイは語る」の授業から、今回の「よりよい地球の未来」に関する意見文を書く単元に、自然に発展させることができていた。
<ul style="list-style-type: none"> * もし時間的に余裕があれば、1時間以上の授業で実施できると良かった。(丸2時間は必要ない) 	<ul style="list-style-type: none"> * 日本語力に自信がない生徒たちほど、他の生徒たちの意見の表現の仕方を熱心に聞いていた。そして、それを自分の発言の時に必要な語彙として使用できるよう、一生懸命に集中してグルーブトークに参加していた。 * 日本語力が高い生徒たちは、自分の意見を熱心に聞いて貰えることで発言のモチベーションが上がり、より内容の濃いグルーブトークへと発展させることができた。
<ul style="list-style-type: none"> * 日本から来て日の浅い生徒たちは、パネルディスカッションの概念が薄かったので、初めはどんな活動をするのかが分かりにくいようだった。このような生徒たちへの手立てとして、パネルディスカッションについて、もう少し詳しく説明すれば良かった。 * パネルディスカッションとディベートの違いをもっとはっきりと理解させることができれば良かった。現地校ではディベートが多いので、つい論破をしようと熱くなる生徒たちがいた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 本当に楽しく生き生きと授業に取り組んでいた。 * グループ内のチームワークが非常に高まり、同じグループメンバーの意見をサポートするような発言が、活発になされていた。 * 欠席した生徒が、非常に盛り上がった授業の話の後で聞き、授業に参加できなかったことを残念がっていた。 * 出席者からは、「もう一度やりたい!」という声が多く上がっていた。
	<ul style="list-style-type: none"> * どのように構成メモの下書きを書いたら良いかが分からず、困っていた生徒たちが多くいた。しかし、その「困り感」が次時(3時限)の学習のモチベーションとなっていた。
<ul style="list-style-type: none"> * 生徒たちが、意見文の「構成の型」を理解した後に、もっと時間をかけて例文を読み、「構成の型」と内容を照らし合わせれば良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 教師が意見文の「構成の型」を教え込むのではなく、生徒たちがグループごとに、例文について構成を考える活動をとっても熱心に行っていた。話し合いの後に、グループの考え(自分たちが予想した意見文の構成)を紙に書いて発表するところで、お互いの意見を興味深そうに聞いていた。
<ul style="list-style-type: none"> * 1時間ではクラスの半分の発表を聞くことが精一杯だったので、できればもう少し長く時間が取れると良かった。聞きたい人の発表が聞けなくて残念だった生徒もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 一人か二人という、少人数の前で5回も6回も発表をしたので、緊張せずに、しかも自然に発表に慣れてきていた。そして、最終的にはスラスラと自分の意見が述べられるようになっていた。生徒たちには、負担なく発表ができて好評だった。聴く側も意見を出しやすかった。

公益財団法人 海外子女教育振興財団が文部科学省より受託

代表者

佐藤 郡衛 AG5 運営指導委員会委員長・明治大学 特任教授
中村 雅治 公益財団法人 海外子女教育振興財団 理事長

補習校チーム（五十音順）

雨宮 真一 東京学芸大学附属国際中等教育学校 副校長
今澤 悌 甲府市立大国小学校 教諭
岡村 郁子 東京都立大学 教授
近田 由紀子 目白大学 専任講師
佐々 信行 海外子女教育振興財団 教育相談員
渋谷 真樹 日本赤十字看護大学 教授

ダラス補習授業校

宮地 仁 校長
佐藤 恵美 ディレクター

<授業担当者>（五十音順）

上野 更 大野 真由美
長本 玲子 上笹貫 陽子
木下 美香 佐藤 恵美
バーバー 悦子 羽根田 美智子

楽しく日本語を伸ばす 補習授業校学習活動計画集
～ダラス補習授業校の実践から～

2020年4月

編著者 ● 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業
AG5 運営指導委員

発行者 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団
理事長 中村 雅治

連絡先 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団内
AG5事務局
〒105-0002
東京都港区愛宕一丁目3番4号
愛宕東洋ビル6階
E-MAIL：ag5@joes.or.jp
TEL：03-4330-1352
FAX：03-4330-1355

印刷所 ● 株式会社トック企画



公益財団法人
海外子女教育振興財団
Japan Overseas Educational Services